
さぬき市 男女共同参画に関する
教職員アンケート調査

－ 報告書 －

2022（令和4）年11月
香川県 さぬき市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	2
1 性別	2
2 年齢	2
3 勤務先	3
III 調査結果	4
1 男女の性別差や役割分担等について	4
2 男女の平等意識	7
3 性別を意識した発言の有無	11
4 性別を意識した発言の内容	12
5 進路選択時の生徒における性別意識	13
6 進路指導時の教職員における性別意識	16
7 学校の職場環境について	18
8 男女共同参画への取組状況	21
9 用語の認知状況	22
10 デートDVの認知状況	24
11 デートDVの相談を受けた経験	25
12 選択的夫婦別姓（別氏）制度について	26
13 L G B T Qに関する課題について	27
14 男女共同参画の実現のために必要だと思う取組	28
15 男女共同参画の推進に市が力を入れるべきこと	31
16 男女共同参画について（自由記述回答）	34
資料 調査票	36

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「第3次さぬき市男女共同参画プラン」の策定に当たり、市内小学校及び中学校教職員における男女共同参画に関する教育現場での意識や実態、問題点や意見等を調査し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

市内小学校及び中学校の教職員

【調査方法】

各学校を通して配付、回収

【調査期間】

2022（令和4）年8月

【回収結果】

配布数 ----- 80 件

有効回収数 ----- 80 件

有効回収率 ----- 100.0%

【報告書の見方について】

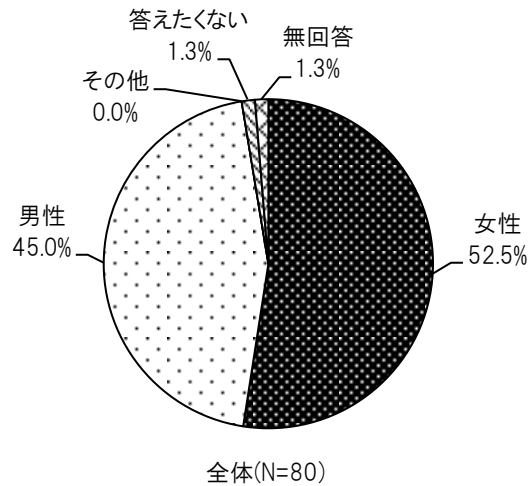
- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- (4) 図表中における性別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、性別でクロス集計する場合における性別の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、平成24年及び平成29年に実施した同調査との比較を行っている（時系列推移）。その際、図表等の表記は平成24年調査を「前々回（H24）」、平成29年調査を「前回（H29）」と略記している。
- (7) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

II 回答者の属性

1 性別

問1 あなたの性別をお答えください。（自認する性別をお答えください。）（○印1つ）

回答者の性別構成比は、「女性」が 52.5%、「男性」が 45.0%と、女性の割合が男性を上回っている。

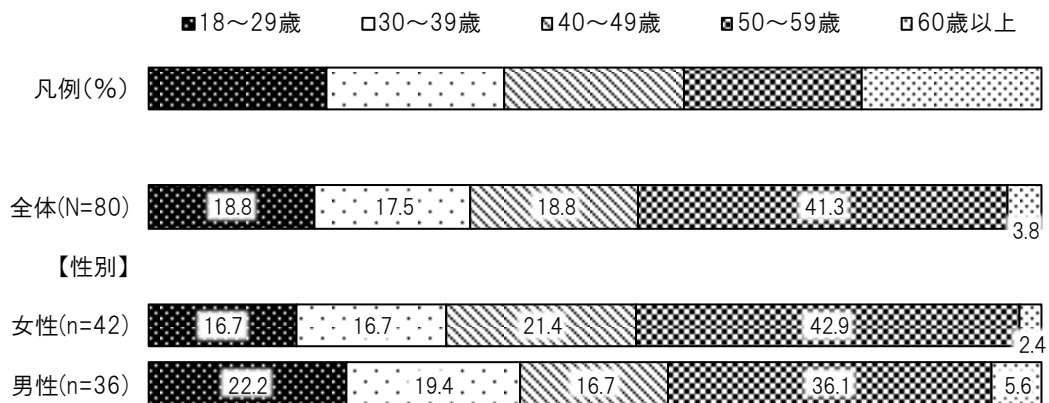


2 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。（○印1つ）

年齢別構成は、「50～59歳」の割合が 41.3%と最も高く、次いで「18～29歳」「40～49歳」（各 18.8%）、「30～39歳」（17.5%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「50～59歳」の割合が高く、男性は「18～29歳」の割合が女性を上回っている。



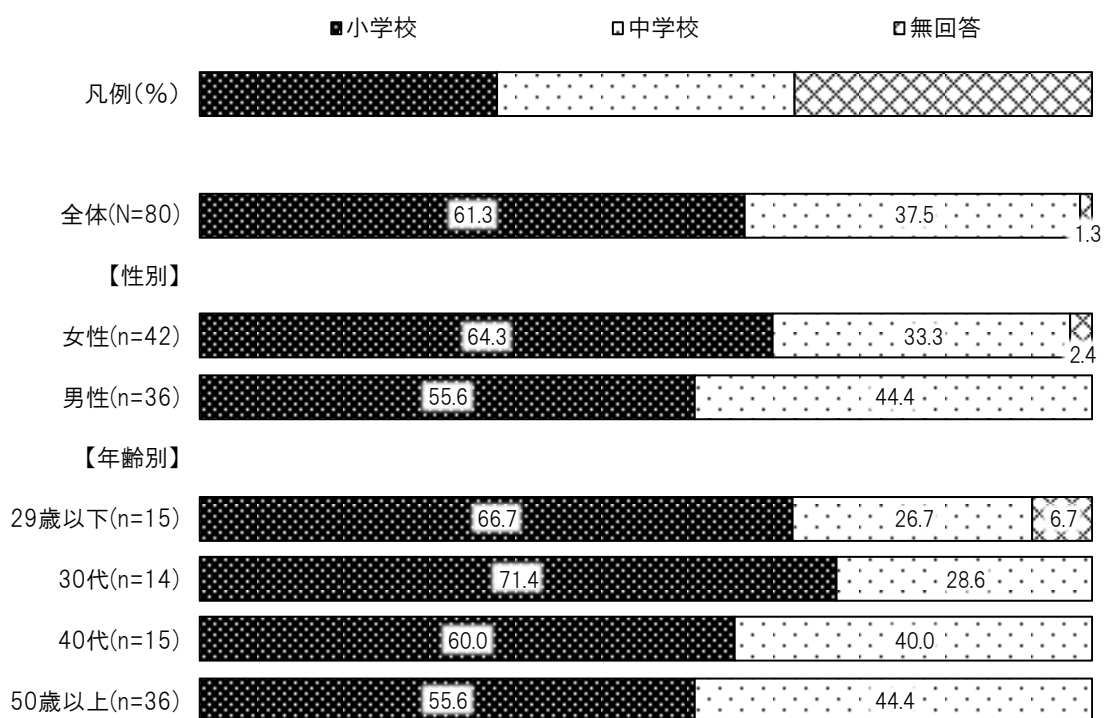
3 勤務先

問3 あなたが勤務しているのはどちらですか。(○印1つ)

勤務先については、「小学校」が約6割(61.3%)を占めており、中学校は37.5%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「小学校」の割合が高く、男性は「中学校」の割合が高くなっている。

年齢別では、30代で「小学校」の割合が高くなっている。



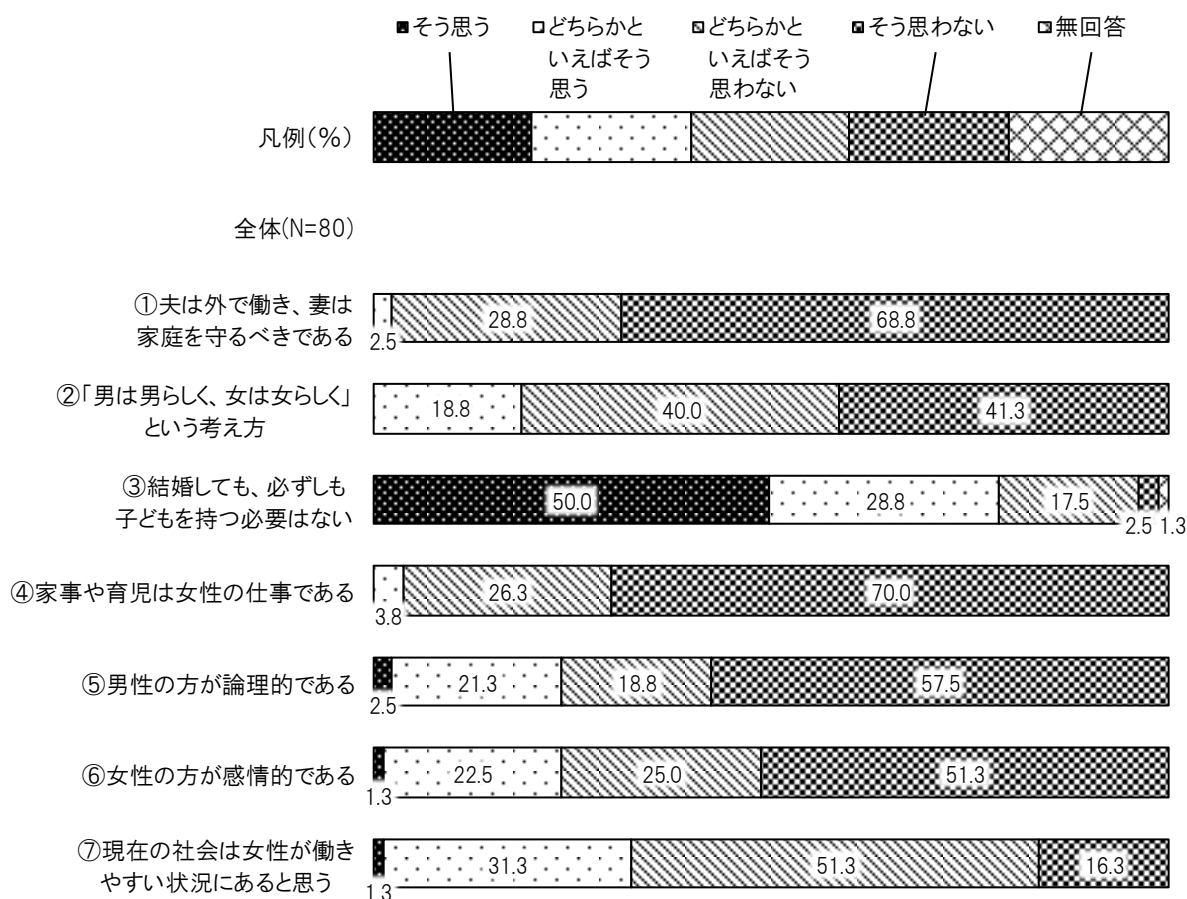
Ⅲ 調査結果

1 男女の性別差や役割分担等について

問4 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。（○印1つずつ）

男女の性別差や役割分担等については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した割合が高い順に、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」（78.8%）、「⑦現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思う」（32.6%）となっている。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計した割合が高い順に、「①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」（97.6%）、「④家事や育児は女性の仕事である」（96.3%）、「②男は男らしく、女は女らしくという考え方」（81.3%）となっている。



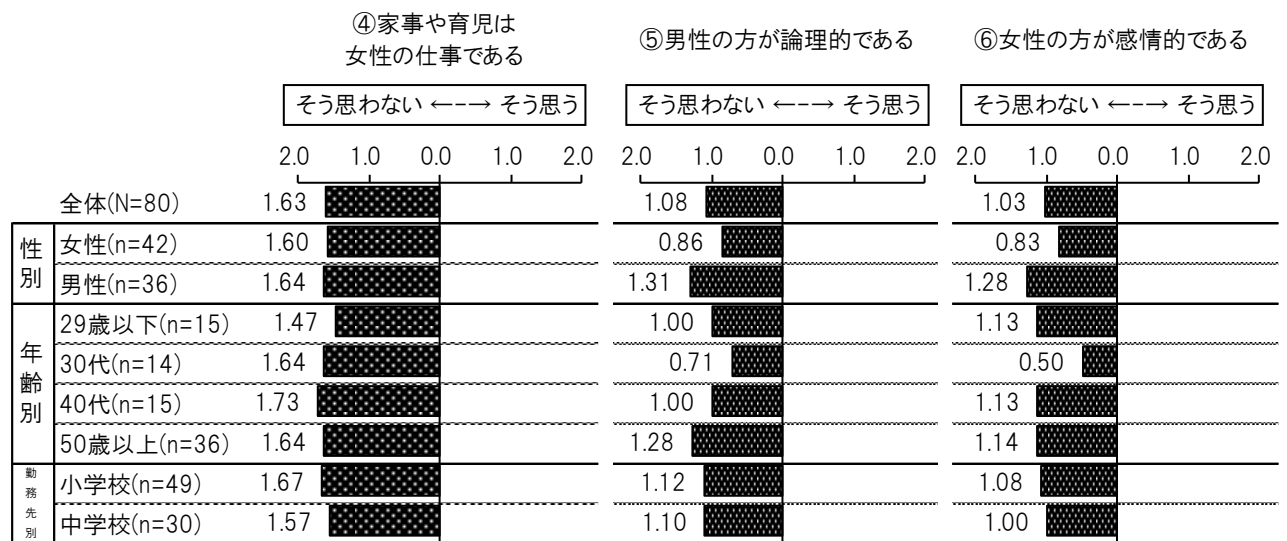
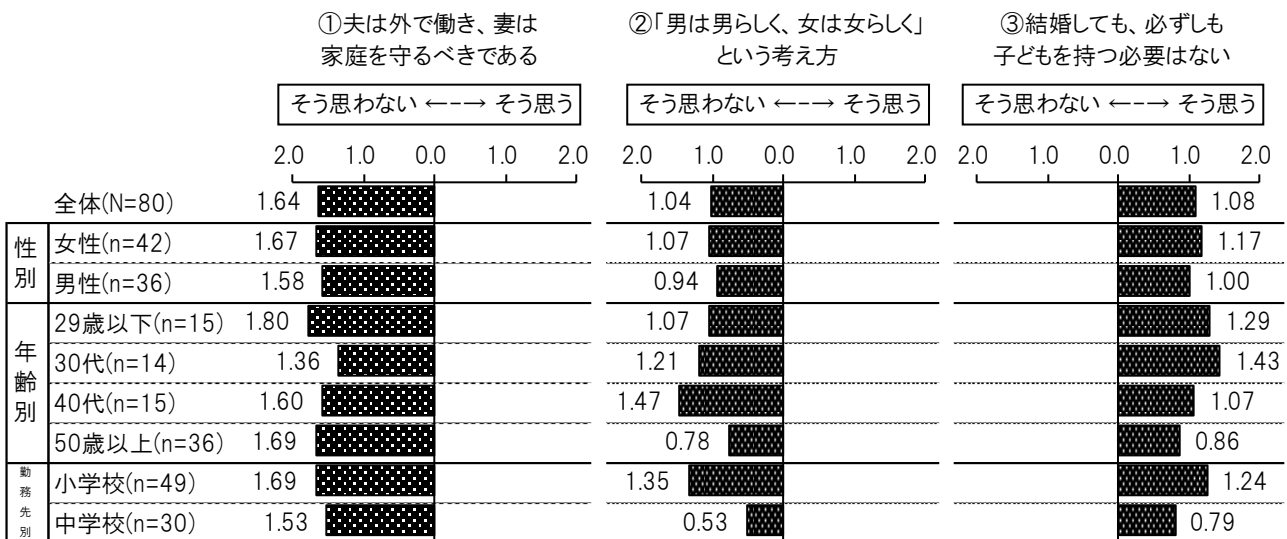
平均評定値*による属性別傾向をみると、男性は「⑤男性の方が論理的である」「⑥女性の方が感情的である」で否定的な回答が女性を上回っている。

年齢別でみると、29歳以下では「⑦現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思う」、30代以下では「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」でそれぞれ肯定的な回答が多くなっている。

勤務先別では、小学校は中学校に比べ「②男は男らしく、女は女らしくという考え方」で否定的な回答が多く、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」で肯定的な回答が多くなっている。

※平均評定値

平均評定値とは、「そう思う」「そう思わない」に2点、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」に1点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、グラフ上では右側が肯定的、左側が否定的な意見を示す指標である。



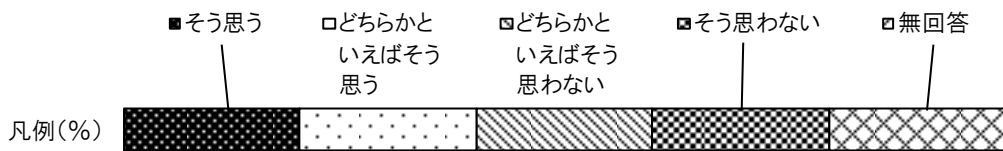
⑦現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思う

そう思わない ←→ そう思う

2.0 1.0 0.0 1.0 2.0

	全体(N=80)	0.50	
性別	女性(n=42)	0.40	
	男性(n=36)	0.56	
年齢別	29歳以下(n=15)	0.00	
	30代(n=14)	0.79	
	40代(n=15)	0.53	
	50歳以上(n=36)	0.58	
勤務先別	小学校(n=49)	0.37	
	中学校(n=30)	0.70	

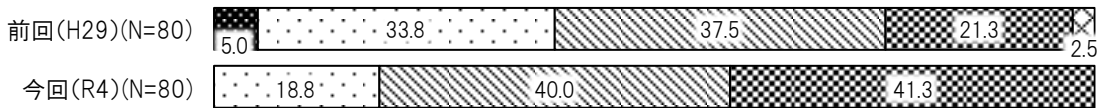
【参考／時系列推移】



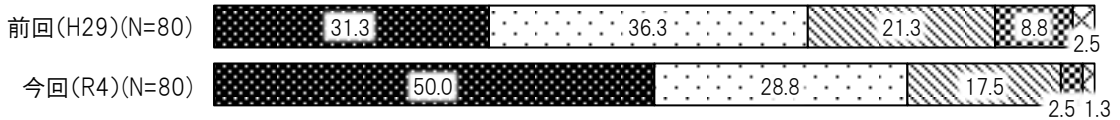
①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



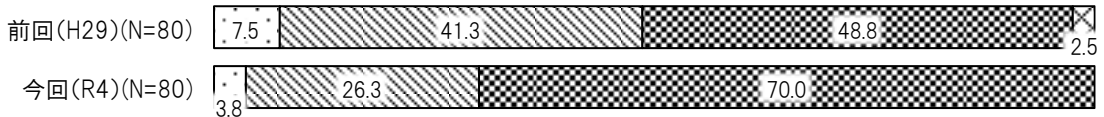
②「男は男らしく、女は女らしく」という考え方



③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



④家事や育児は女性の仕事である

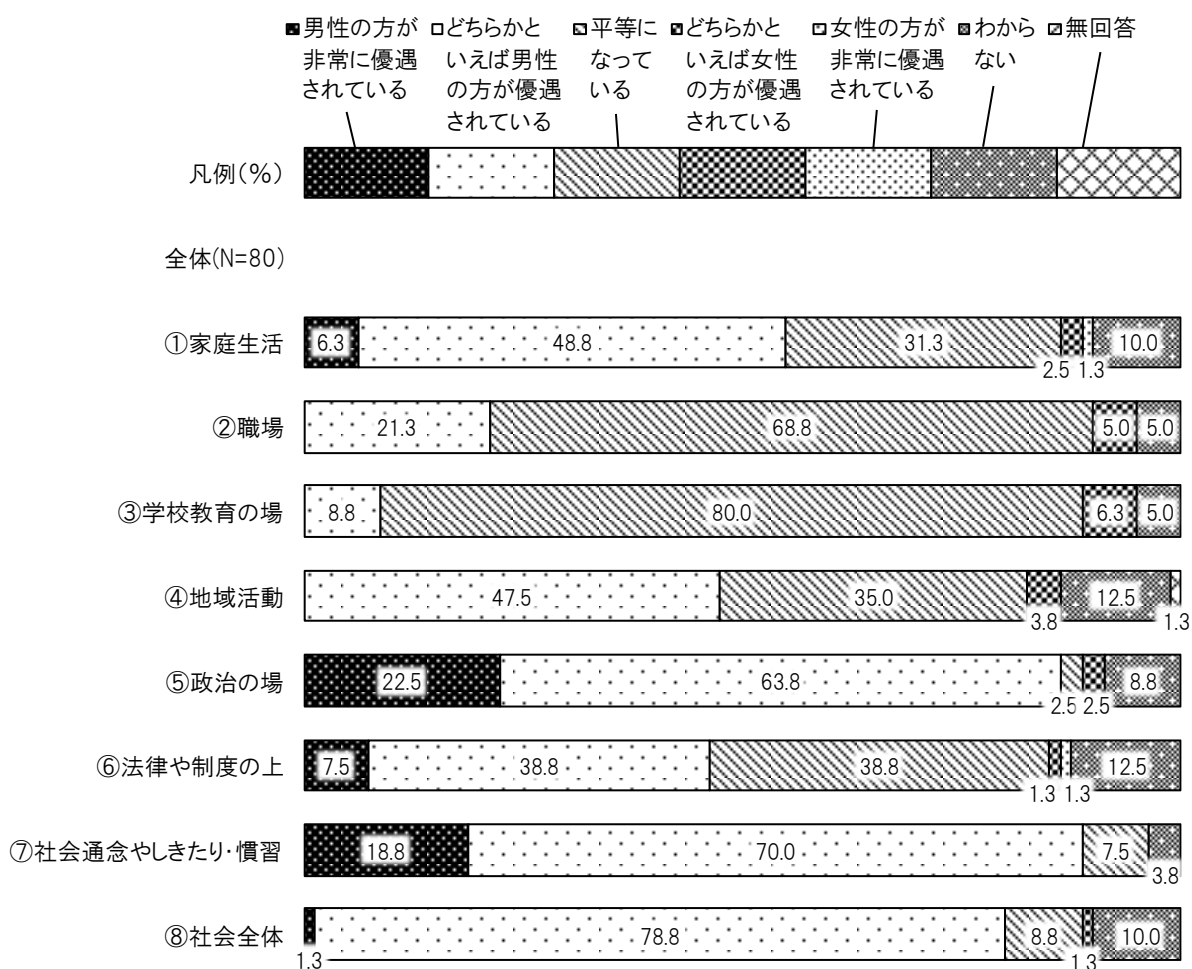


2 男女の平等意識

問5 あなたは、次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①から⑧までの項目についてお答えください。(○印1つずつ)

男女の平等意識については、全ての分野において、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の割合が『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）の割合を上回っている。特に、「⑦社会通念やしきたり・慣習」(88.8%)、「⑤政治の場」(86.3%)、「⑧社会全体」(80.1%)で『男性優遇』の割合が高くなっている。

一方、「平等になっている」の割合が高い順に「③学校教育の場」(80.0%)、「②職場」(68.8%)となっている。



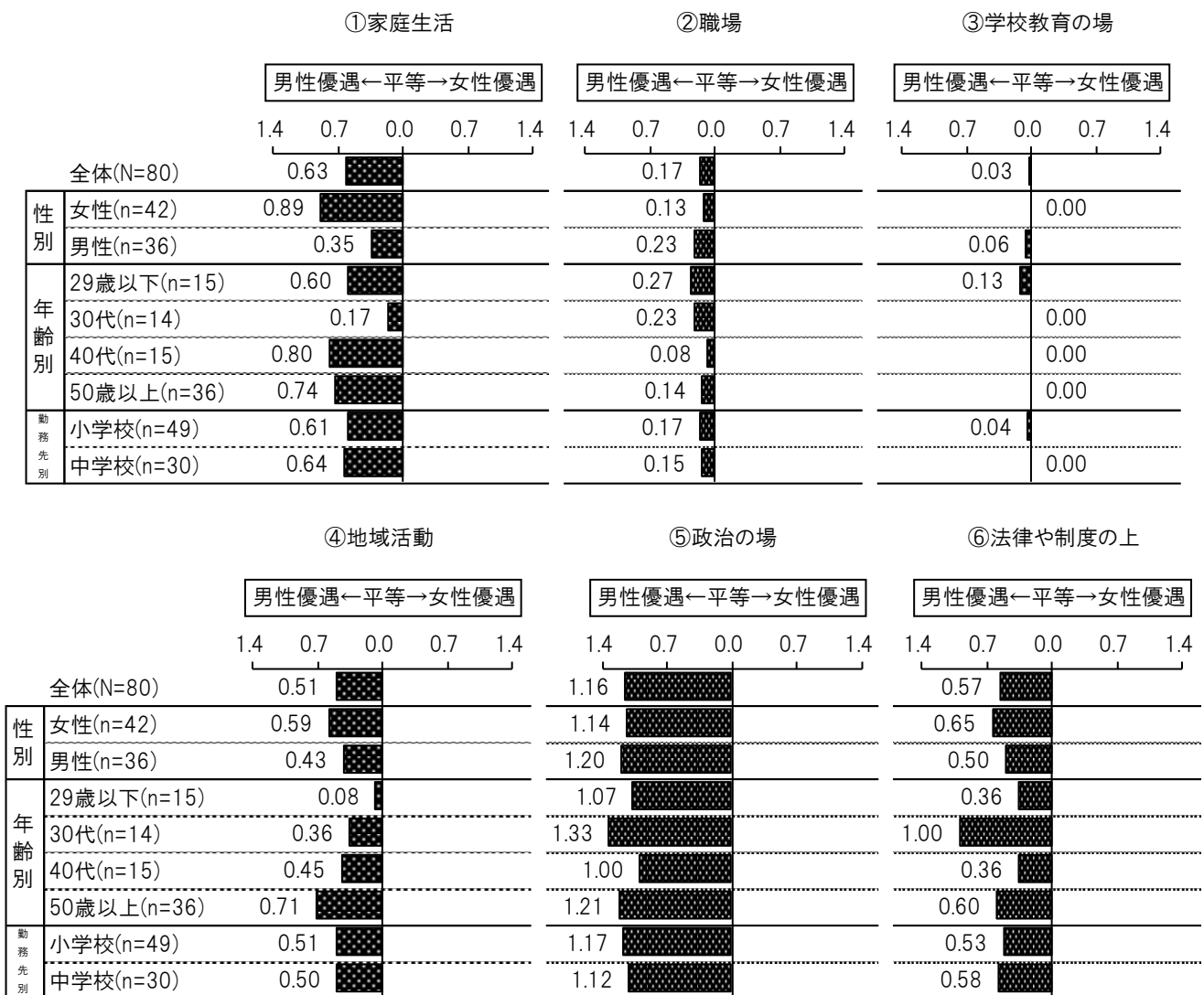
平均評定値*による属性別傾向をみると、女性は男性に比べ「①家庭生活」で『男性優遇』意識が高くなっている。

年齢別では、30代において「①家庭生活」で『平等』意識が高く、年齢が上がるほど「④地域活動」で『男性優遇』意識が高くなっている。また、30代では「⑥法律や制度の上」で『男性優遇』意識が高くなっている。

勤務先別では、大きな差はみられない。

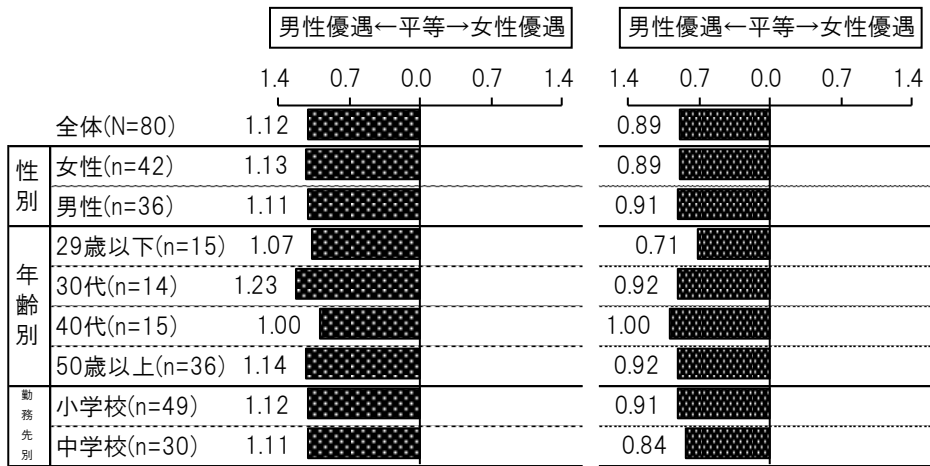
※平均評定値

平均評定値とは、女性、男性それぞれについて「非常に優遇されている」に2点、「どちらかといえば優遇されている」に1点、「平等になっている」に0点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ加重平均して算出した値で、グラフ上では左側が男性優遇、右側が女性優遇、0に近いほど平等を示す指標である。

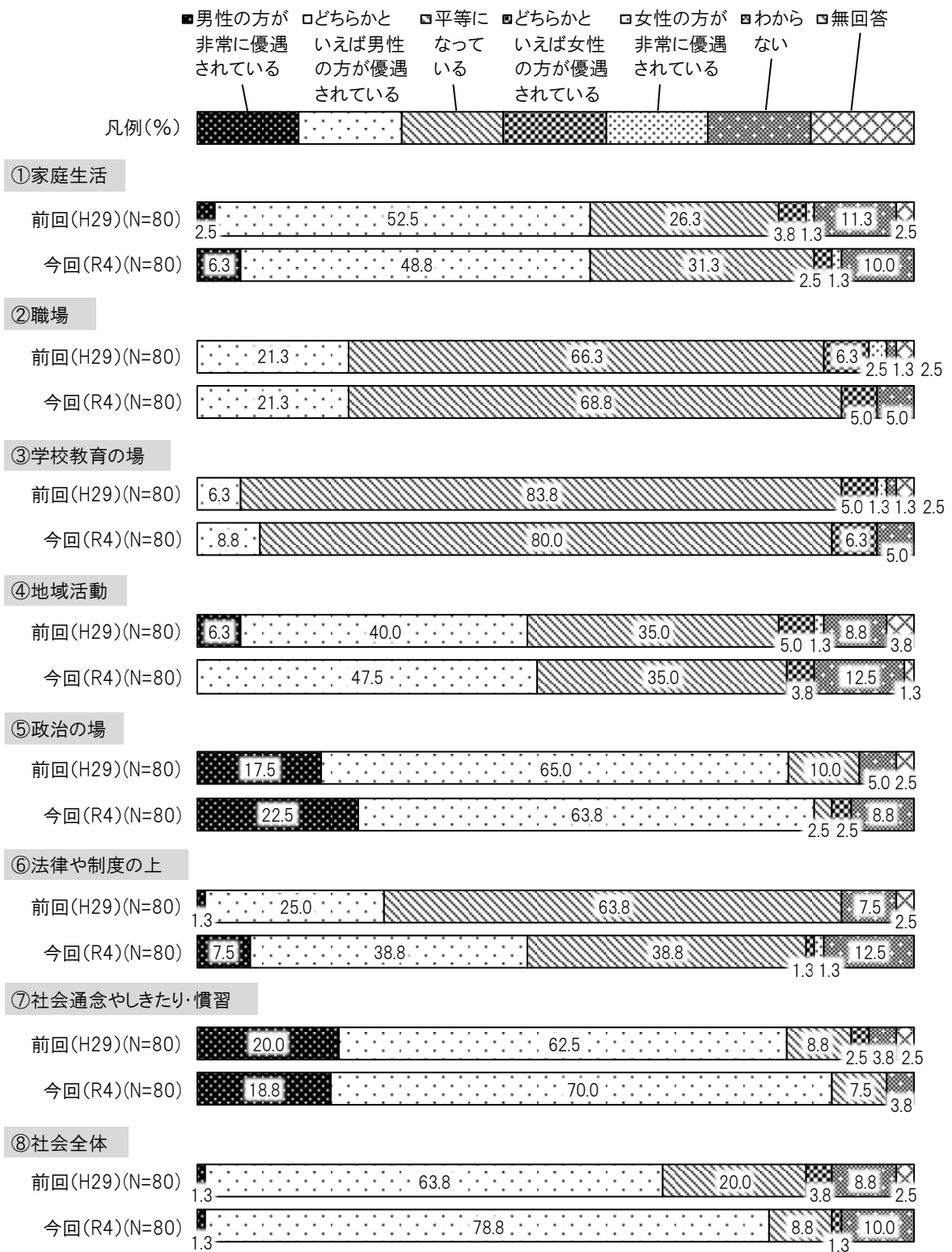


⑦ 社会通念やしきたり・慣習

⑧ 社会全体



【参考／時系列推移】



3 性別を意識した発言の有無

問6 あなたは、児童や生徒に対して「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言うことがありますか。(○印1つ)

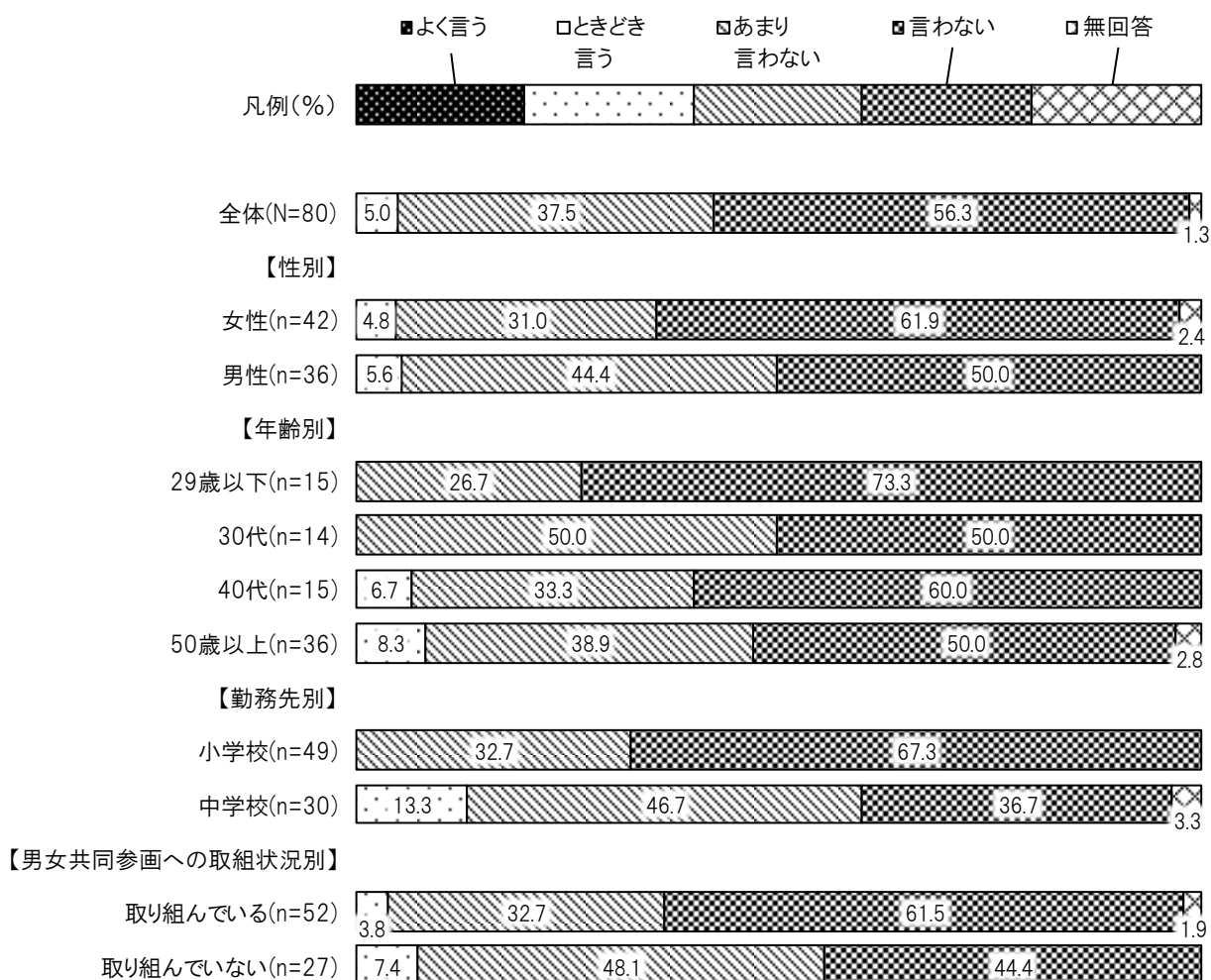
性別を意識した発言については、「あまり言わない」が37.5%、「言わない」が56.3%、合計で9割以上(93.8%)が『言わない』と回答している。一方、「ときどき言う」は5.0%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「言わない」の割合が高く、男性は「あまり言わない」の割合が女性を上回っている。

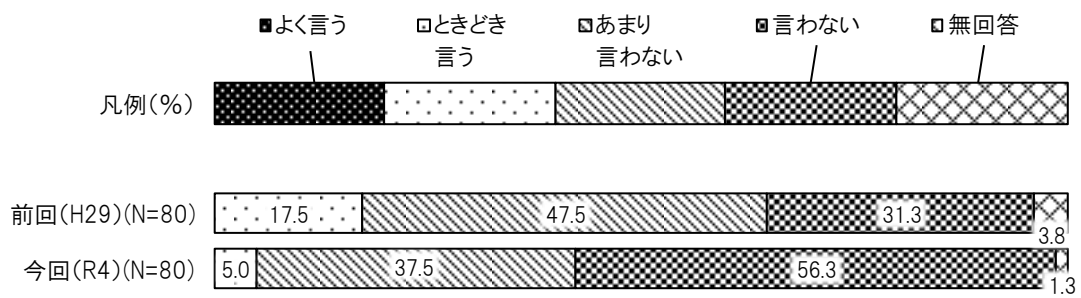
年齢別では、29歳以下で「言わない」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

勤務先別でみると、小学校で「言わない」の割合が高くなっている。

男女共同参画への取組状況別(問11)では、取り組んでいると回答した層で「言わない」の割合が高くなっている。



【参考／時系列推移】



4 性別を意識した発言の内容

【問6で「1～2」と答えた方におたずねします。】
 問7 どのようなことについて言うことがありますか。（○印いくつでも）

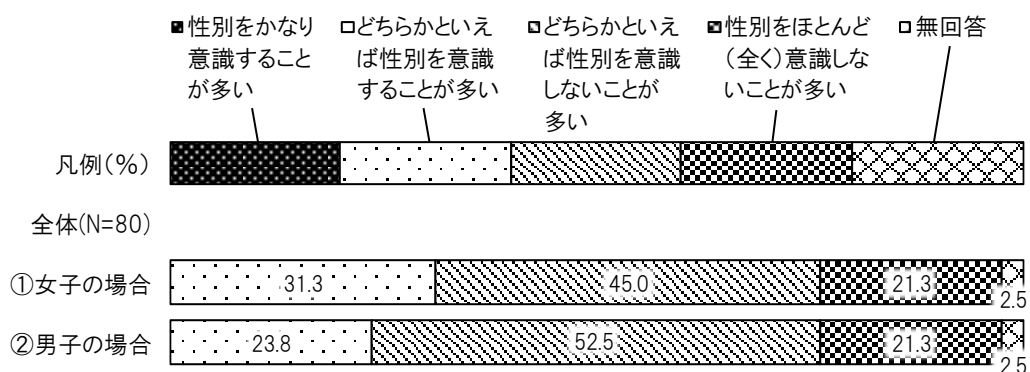
性別を意識した発言の内容については、回答者は4名おり、「座り方・歩き方」「ことばづかい」「服装や身だしなみ」「整理整とん」などの回答がみられた。

5 進路選択時の生徒における性別意識

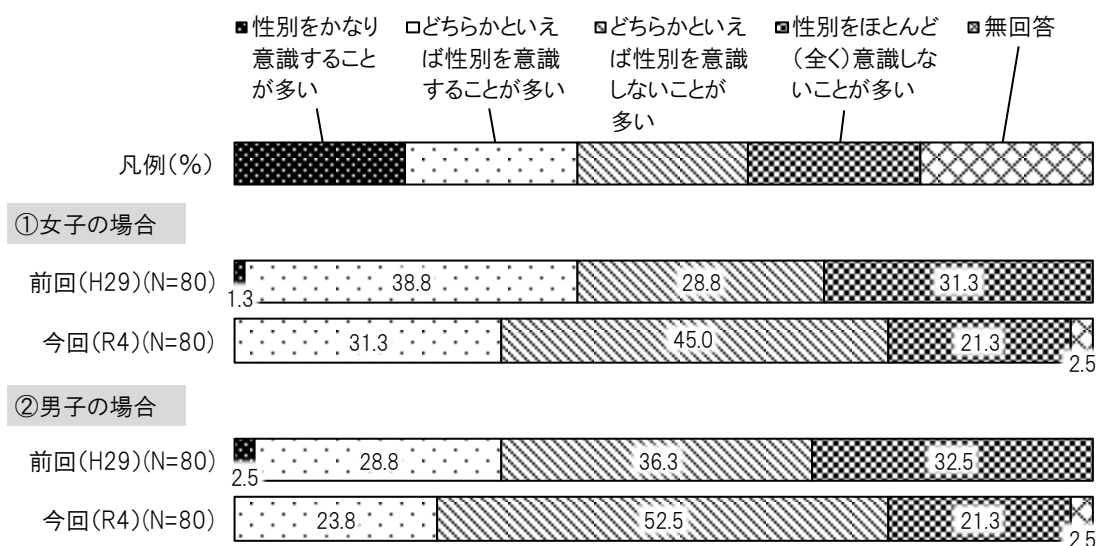
問8 児童や生徒は、自身の進路を選ぶときに、性別を意識していますか。女子の場合、男子の場合のそれぞれについてお答えください。(○印1つずつ)

児童や生徒が進路選択時に性別を意識することについては、「どちらかといえば性別を意識することが多い」の割合が、女子で31.3%、男子で23.8%となっている。

一方、『意識しない』(「どちらかといえば性別を意識しないことが多い」「性別をほとんど(全く)意識しないことが多い」の合計)の割合は、女子で66.3%、男子で73.8%となっている。



【参考/時系列推移】



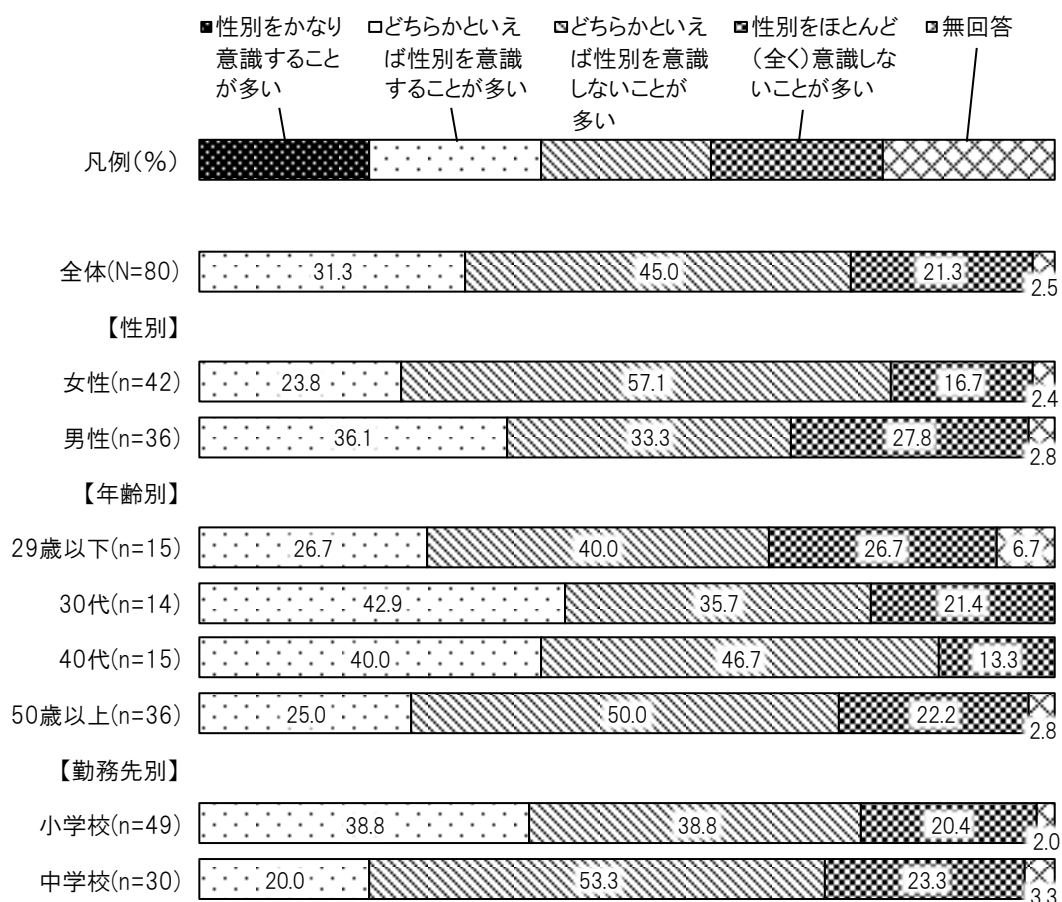
①女子の場合

女子の場合については、「どちらかといえば性別を意識することが多い」が31.3%となっており、「どちらかといえば性別を意識しないことが多い」(45.0%)、「性別をほとんど(全く)意識しないことが多い」(21.3%)の合計は66.3%となっている。

性別では、男性は「どちらかといえば性別を意識することが多い」の割合が女性を大きく上回っている。

年齢別では、30～40代で「どちらかといえば性別を意識することが多い」の割合が高くなっている。

勤務先別でみると、小学校で「どちらかといえば性別を意識することが多い」の割合が高くなっている。



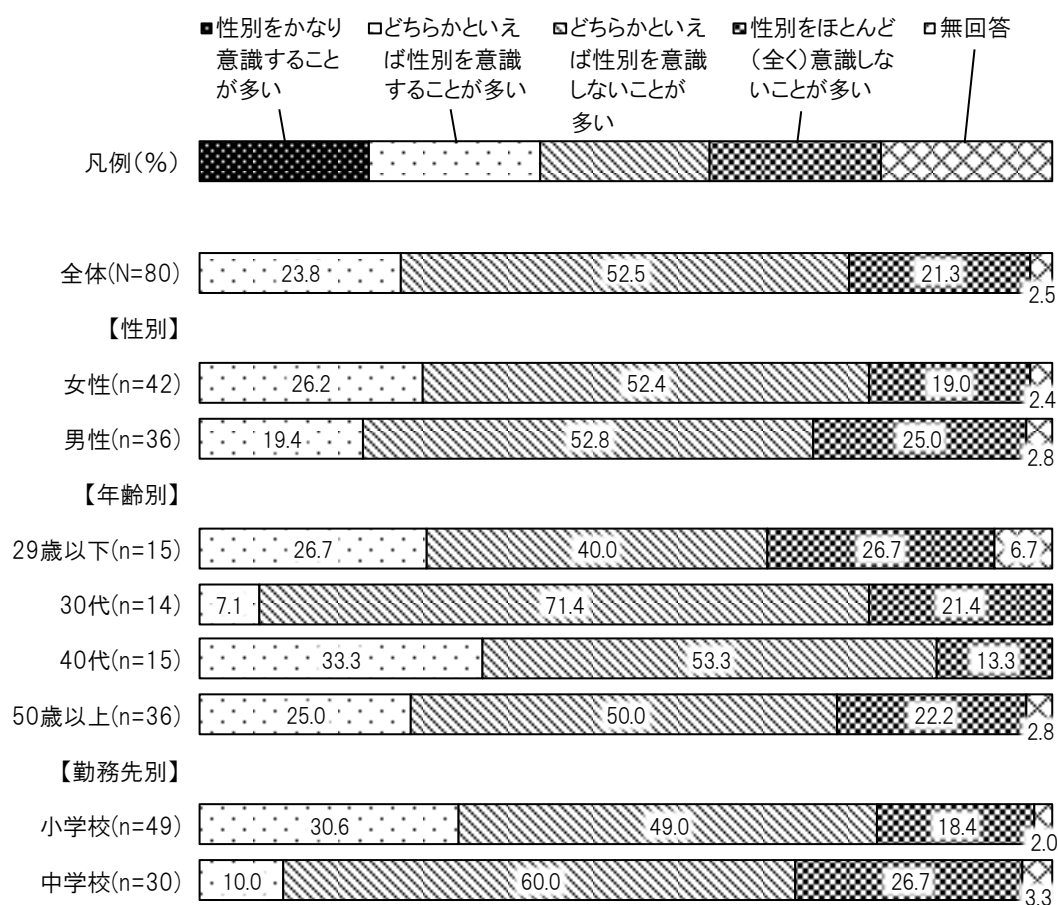
②男子の場合

男子の場合については、「どちらかといえば性別を意識することが多い」が23.8%となっており、「どちらかといえば性別を意識しないことが多い」(52.5%)、「性別をほとんど(全く)意識しないことが多い」(21.3%)の合計は73.8%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「どちらかといえば性別を意識することが多い」の割合が高くなっている。

年齢別では、30代で『意識しない(合計)』の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

勤務先別でみると、小学校で「どちらかといえば性別を意識することが多い」の割合が高くなっている。



6 進路指導時の教職員における性別意識

問9 あなたは、児童や生徒の進路指導をするときに、性別を意識することがありますか。
(○印1つ)

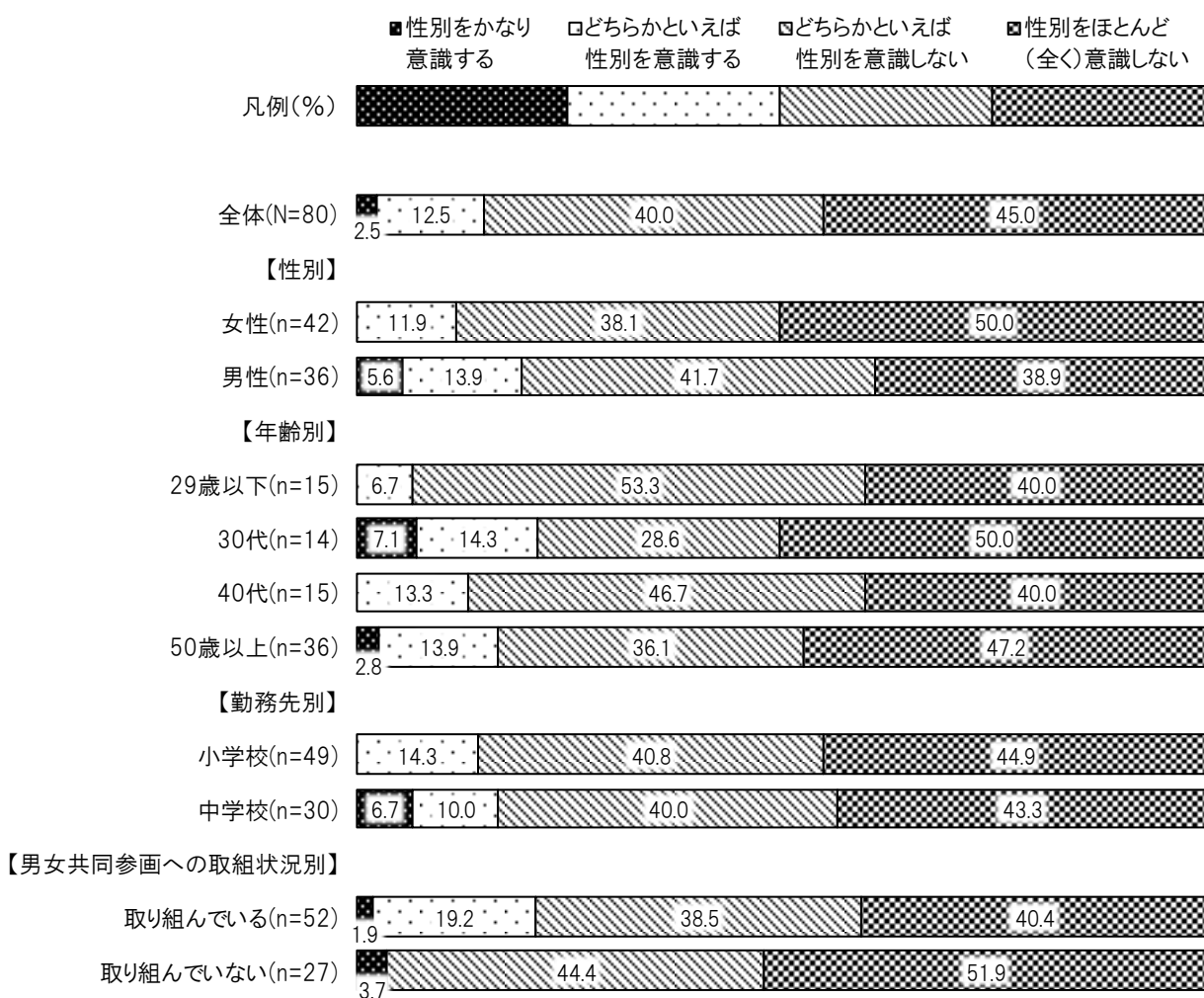
進路指導時に性別を意識することについては、「性別をかなり意識する」が2.5%、「どちらかといえば性別を意識する」が12.5%、合計で15.0%が『意識する』と回答している。一方、「どちらかといえば性別を意識しない」(40.0%)、「性別をほとんど(全く)意識しない」(45.0%)の合計は85.0%となっている。

性別では、男性は女性に比べ『意識する(合計)』の割合が高くなっている。

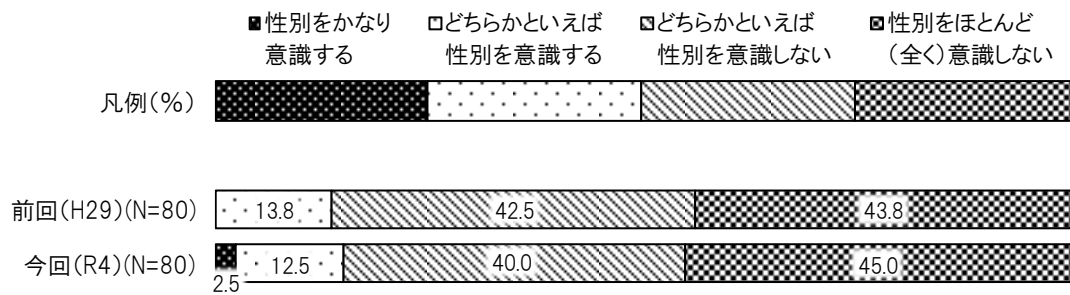
年齢別では、30代で『意識する(合計)』の割合が高くなっている。

勤務先別でみると、中学校は小学校に比べ「性別をかなり意識する」の割合が高くなっている。

男女共同参画への取組状況別では、取り組んでいると回答した層で「どちらかといえば性別を意識する」の割合が高くなっている。



【参考／時系列推移】

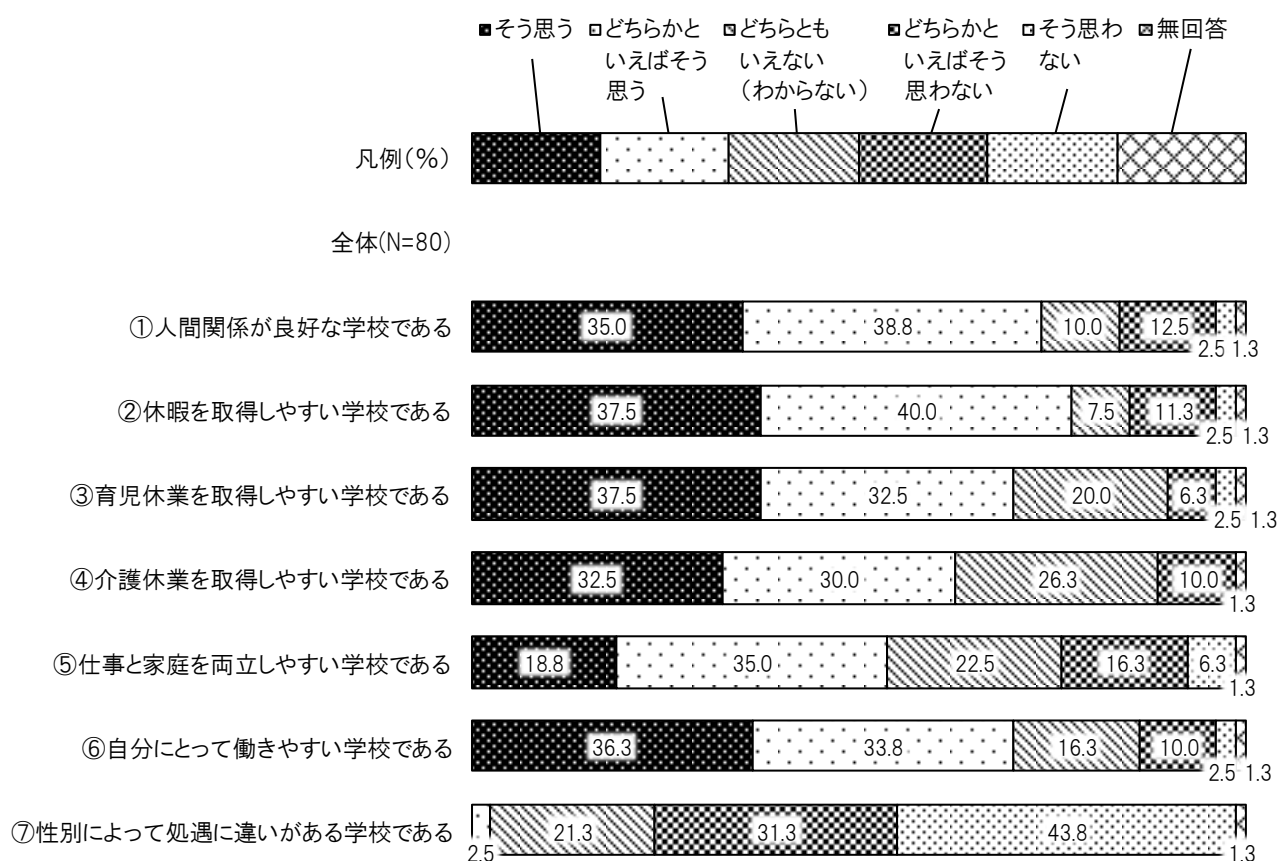


7 学校の職場環境について

問 10 あなたは、次にあげる学校の職場環境に対する考え方について、どのように思いますか。（○印1つずつ）

学校の職場環境については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した割合が高い順に、「②休暇を取得しやすい学校である」（77.5%）、「①人間関係が良好な学校である」（73.8%）、「⑥自分にとって働きやすい学校である」（70.1%）、「③育児休業を取得しやすい学校である」（70.0%）となっている。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計した割合が高い順に、「⑦性別によって処遇に違いがある学校である」（75.1%）、「⑤仕事と家庭を両立しやすい学校である」（22.6%）となっている。



平均評定値*による属性別傾向をみると、女性は「③育児休業を取得しやすい学校である」で肯定的な回答が多くなっている。

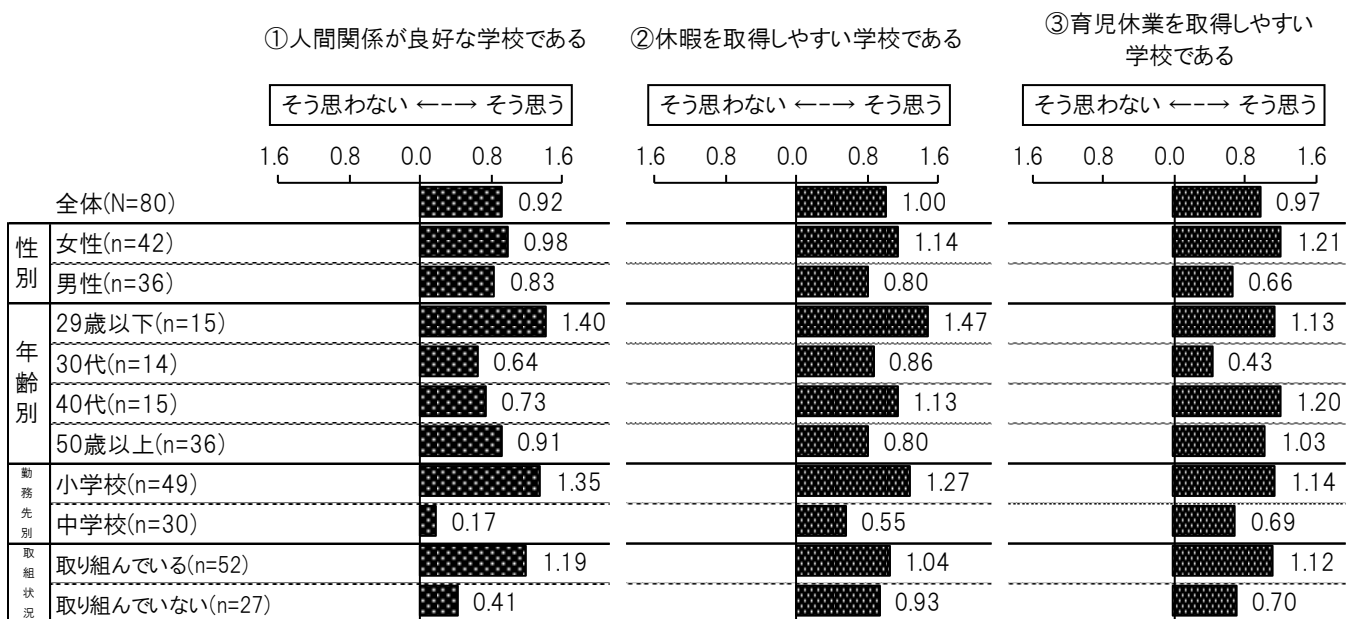
年齢別では、29歳以下において「①人間関係が良好な学校である」「⑥自分にとって働きやすい学校である」で肯定的な回答が多く、30代では「③育児休業を取得しやすい学校である」「⑤仕事と家庭を両立しやすい学校である」で否定的な回答が多くなっている。

勤務先別でみると、小学校では「①人間関係が良好な学校である」「⑥自分にとって働きやすい学校である」で肯定的な回答が中学校を大きく上回っている。

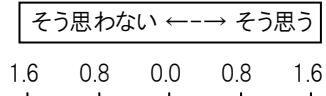
男女共同参画への取組状況別では、取り組んでいると回答した層で「①人間関係が良好な学校である」「⑥自分にとって働きやすい学校である」で肯定的な回答が多くなっている。

※平均評定値

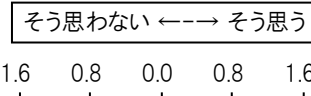
平均評定値とは、「そう思う」「そう思わない」に2点、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」に1点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、グラフ上では右側が肯定的、左側が否定的な意見を示す指標である。



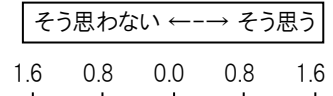
④介護休業を取得しやすい学校である



⑤仕事と家庭を両立しやすい学校である

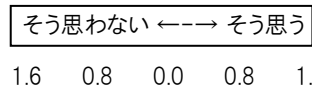


⑥自分にとって働きやすい学校である



	④介護休業を取得しやすい学校である	⑤仕事と家庭を両立しやすい学校である	⑥自分にとって働きやすい学校である
全体(N=80)	0.86	0.44	0.92
性別			
女性(n=42)	0.95	0.50	1.02
男性(n=36)	0.71	0.31	0.77
年齢別			
29歳以下(n=15)	0.73	0.73	1.27
30代(n=14)	0.79	0.07	0.57
40代(n=15)	1.13	0.60	0.67
50歳以上(n=36)	0.83	0.46	1.03
勤務先別			
小学校(n=49)	1.00	0.73	1.22
中学校(n=30)	0.66	0.07	0.38
取組状況			
取り組んでいる(n=52)	0.96	0.58	1.19
取り組んでいない(n=27)	0.67	0.19	0.41

⑦性別によって処遇に違いがある学校である



	⑦性別によって処遇に違いがある学校である
全体(N=80)	1.18
性別	
女性(n=42)	1.33
男性(n=36)	0.97
年齢別	
29歳以下(n=15)	1.60
30代(n=14)	1.21
40代(n=15)	0.93
50歳以上(n=36)	1.09
勤務先別	
小学校(n=49)	1.37
中学校(n=30)	0.83
取組状況	
取り組んでいる(n=52)	1.29
取り組んでいない(n=27)	0.96

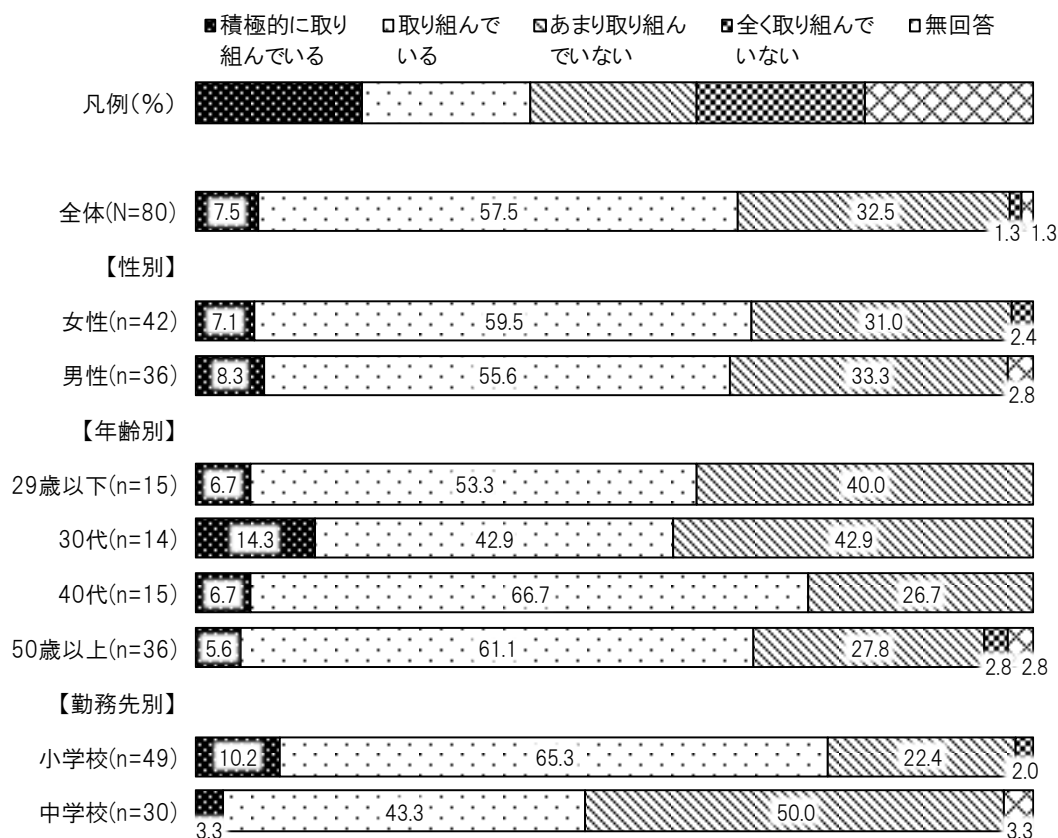
8 男女共同参画への取組状況

問 11 あなたの学校では、男女平等・男女共同参画に関する教育に、どの程度取り組んでいますか。(○印1つ)

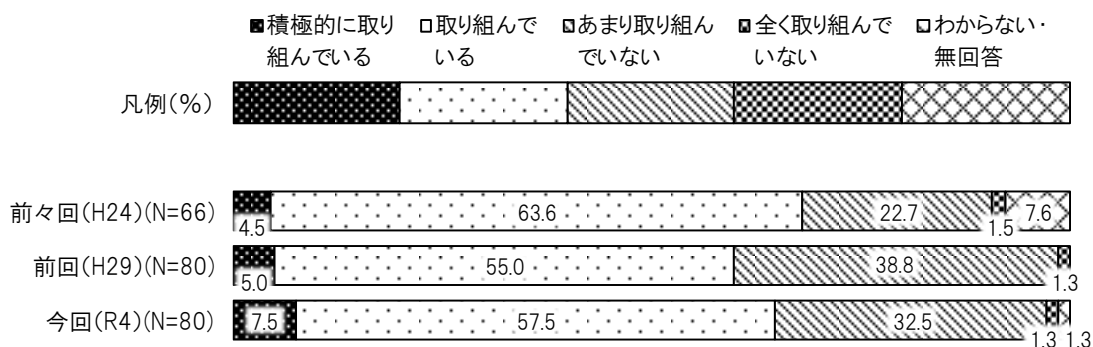
男女共同参画への取組状況については、「積極的に取り組んでいる」が7.5%、「取り組んでいる」が57.5%、合計で65.0%が『取り組んでいる』と回答している。一方、「あまり取り組んでいない」(32.5%)、「全く取り組んでいない」(1.3%)の合計は33.8%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では40代で『取り組んでいる(合計)』の割合が高くなっている。

勤務先別でみると、小学校は『取り組んでいる(合計)』の割合が中学校を大きく上回っている。



【参考/時系列推移】



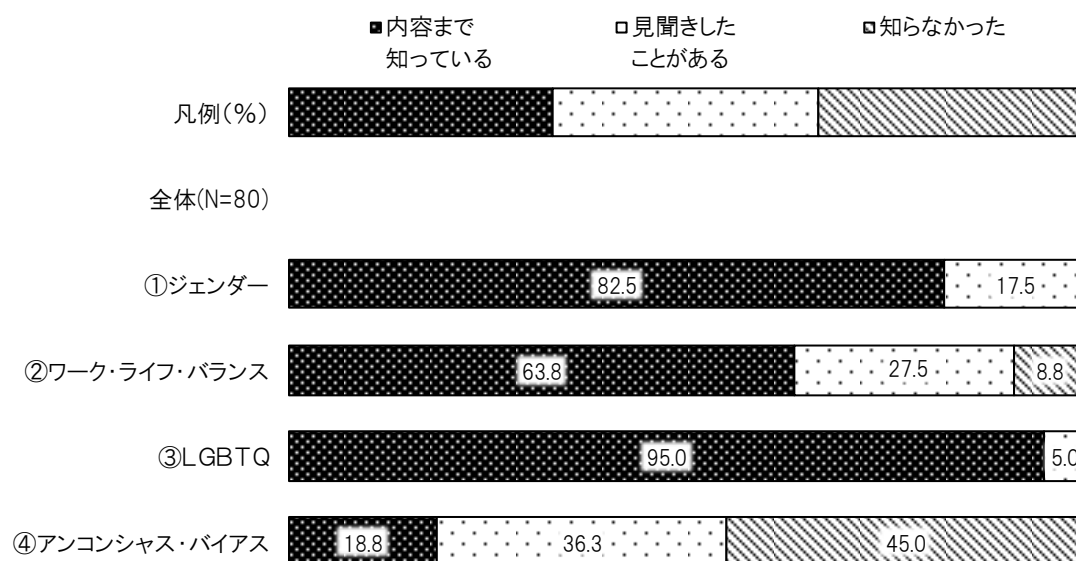
注: 前々回調査では、選択肢に「わからない」がある。

9 用語の認知状況

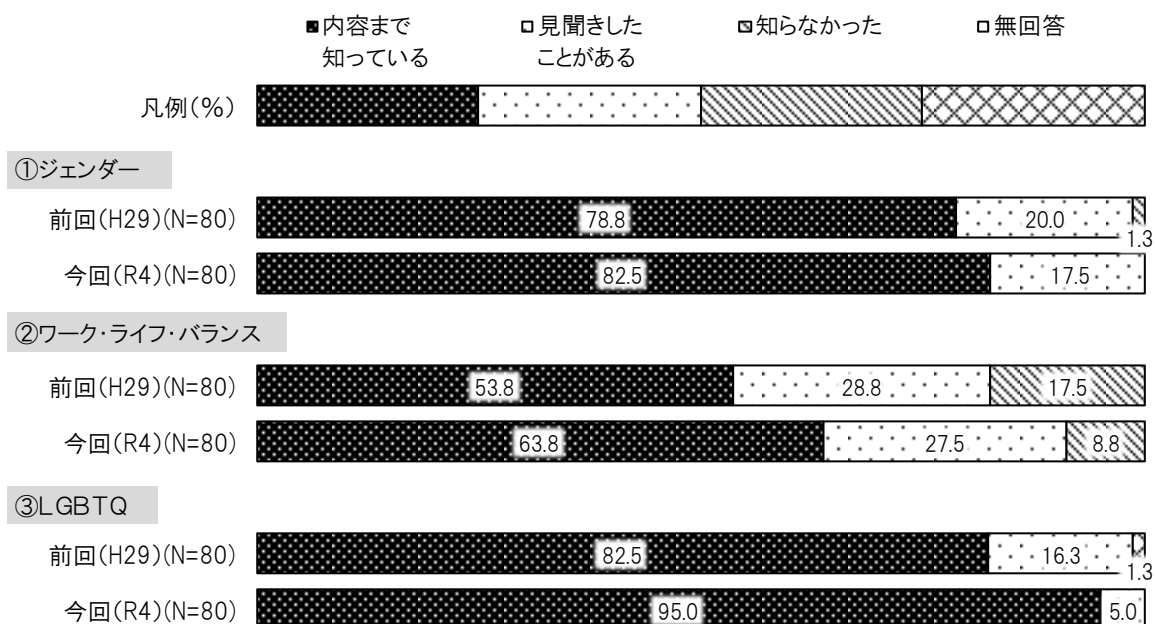
問 12 あなたは、次の用語の意味を知っていますか。（○印1つずつ）

用語の認知状況については、「内容まで知っている」の割合が高い順に、「③LGBTQ」（95.0%）、「①ジェンダー」（82.5%）、「②ワーク・ライフ・バランス」（63.8%）の順となっている。

「④アンコンシャス・バイアス」については、「内容まで知っている」が18.8%、「見聞きしたことがある」が36.3%、合計で55.1%となっている。



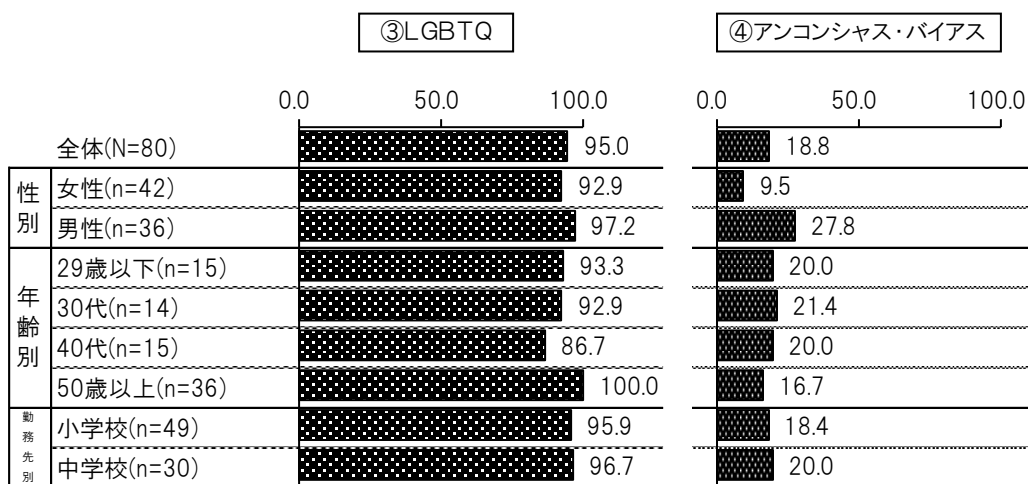
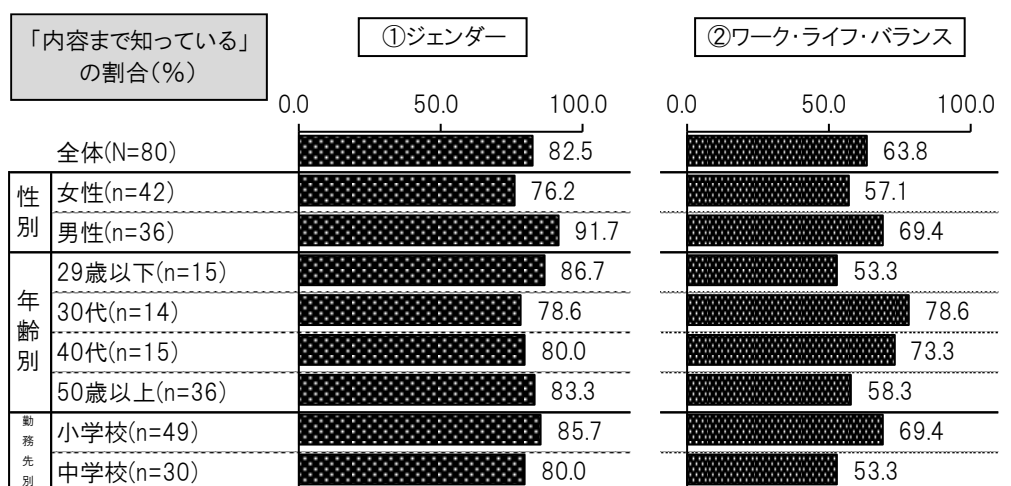
【参考／時系列推移】



「内容まで知っている」の割合を属性別でみると、男性は「④アンコンシャス・バイアス」の割合が女性を大きく上回っている。

年齢別では、30～40代で「②ワーク・ライフ・バランス」の割合が高くなっている。

勤務先別でみると、小学校は中学校に比べ「②ワーク・ライフ・バランス」の割合が高くなっている。



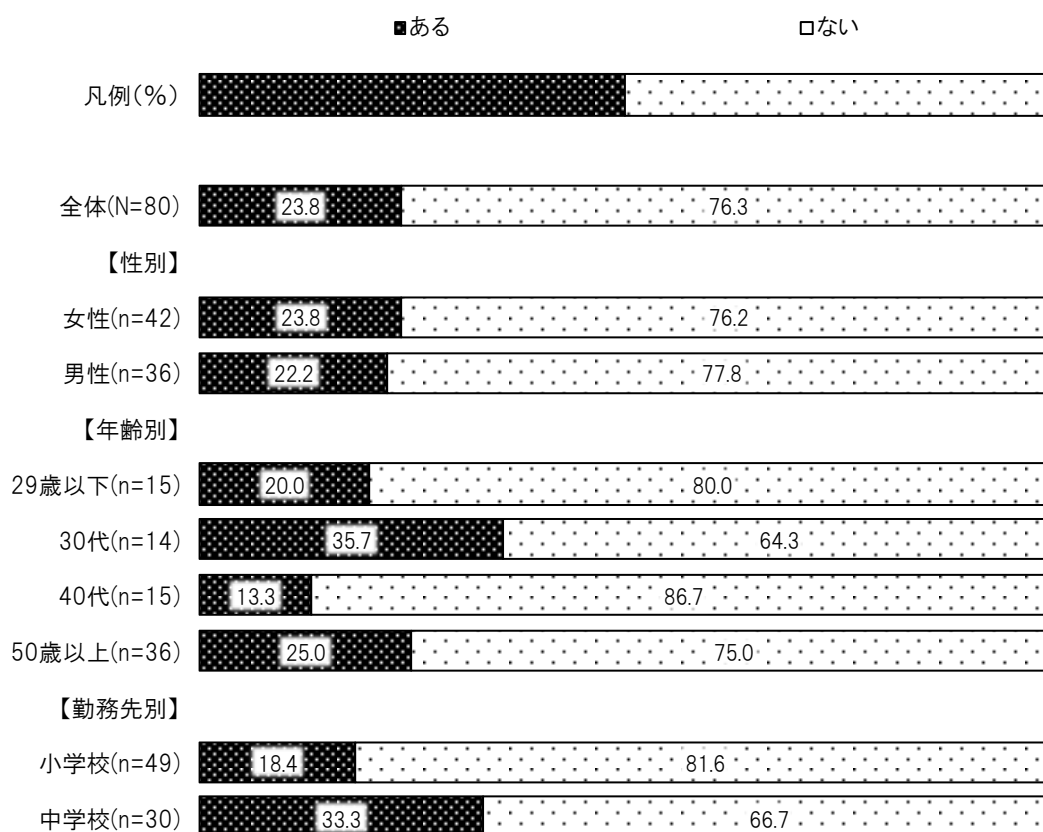
10 デートDVの認知状況

問 13 あなたは、児童や生徒の「デートDV」を見聞きしたことがありますか。
(○印1つ)

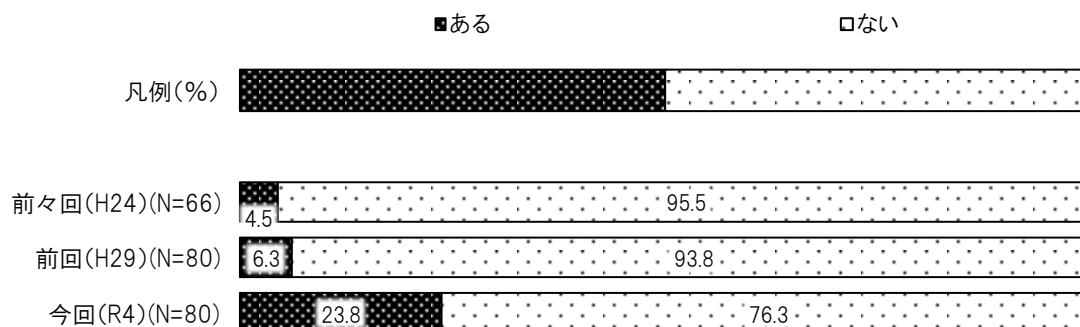
デートDVの認知状況については、「ある」が23.8%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では30代で「ある」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

勤務先別でみると、中学校で「ある」の割合が小学校を大きく上回っている。



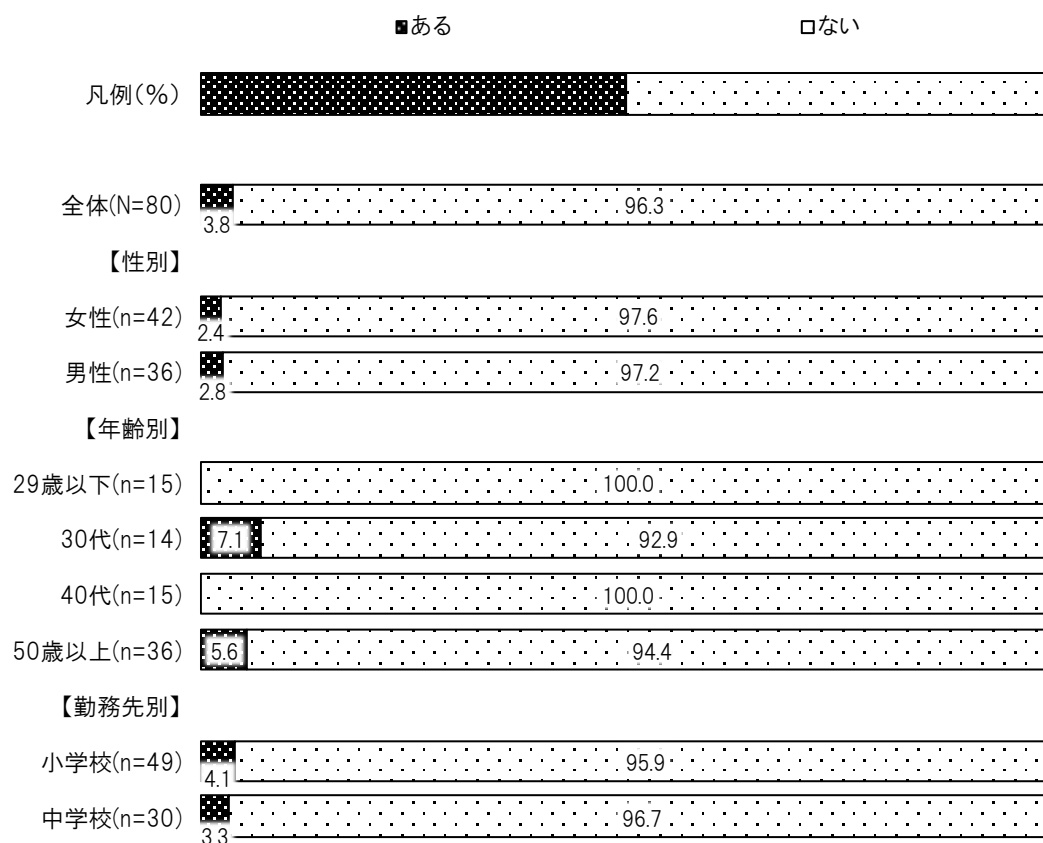
【参考/時系列推移】



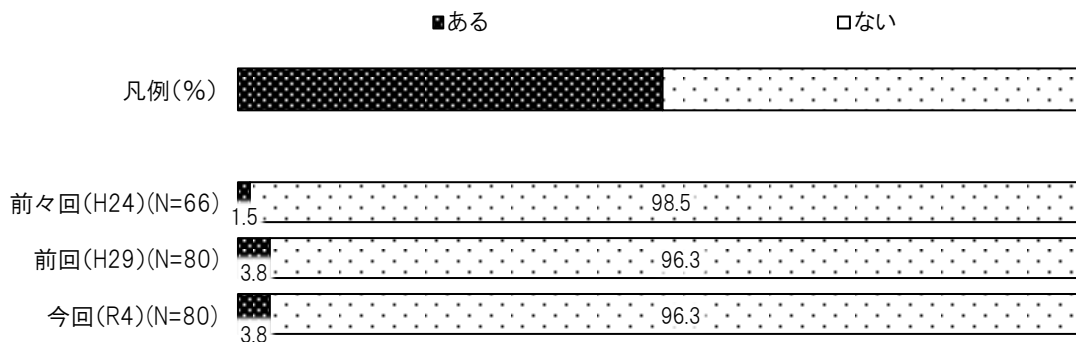
11 デートDVの相談を受けた経験

問 14 あなたは、児童や生徒から「デートDV」について相談を受けたことはありますか。(○印1つ)

デートDVの相談を受けた経験については、「ある」が3.8%となっている。
性別では大きな差はみられないが、年齢別では30代や50歳以上で「ある」の割合が高くなっている。
勤務先別では、大きな差はみられない。



【参考/時系列推移】



12 選択的夫婦別姓（別氏）制度について

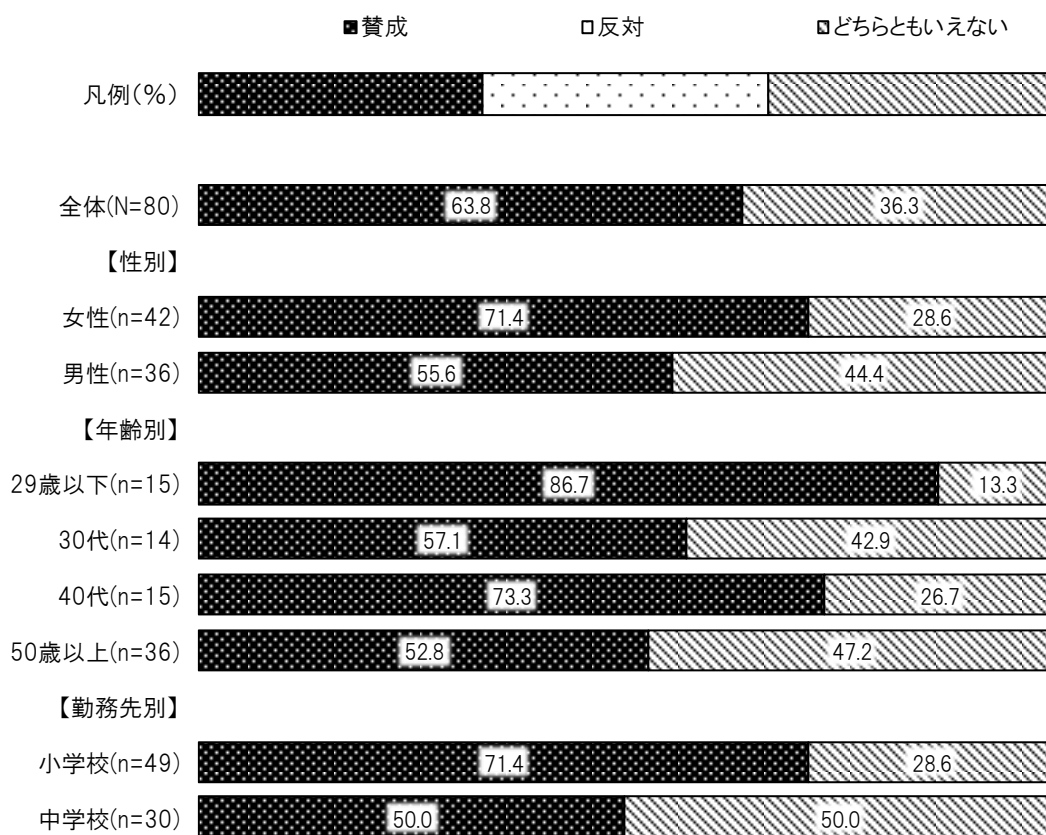
問 15 あなたは「選択的夫婦別姓（別氏）制度」に対して、どのように思いますか。法律や制度の規定にかかわらず、あなたご自身のお考えとしてお答えください。
（○印1つ）

選択的夫婦別姓（別氏）制度については、「賛成」が63.8%、「どちらともいえない」が36.3%となっており、「反対」はみられなかった。

性別では、女性は「賛成」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、29歳以下で「賛成」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

勤務先別でみると、小学校は中学校に比べ「賛成」の割合が高くなっている。



13 L G B T Q (セクシュアルマイノリティ) に関する課題について

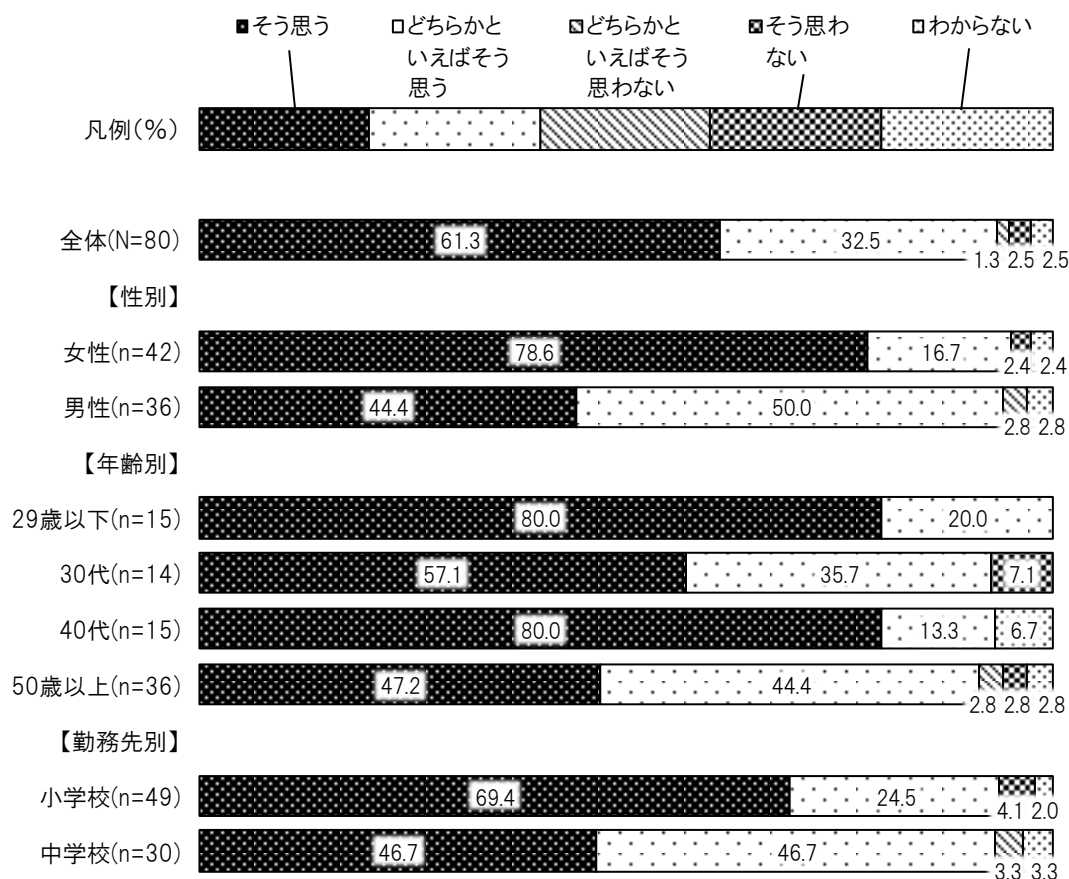
問 16 「世の中ではL G B T Q (セクシュアルマイノリティ) をめぐる問題は、対応すべき社会的な課題になっている」と思いますか。(○印1つ)

L G B T Q (セクシュアルマイノリティ) をめぐる問題は対応すべき社会的な課題になっていると思うことについては、「そう思う」が61.3%、「どちらかといえばそう思う」が32.5%、合計で93.8%が『そう思う』と回答している。一方、「どちらかといえばそう思わない」(1.3%)、「そう思わない」(2.5%)の合計は3.8%となっている。

性別では、女性は「そう思う」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、29歳以下や40代で「そう思う」の割合が高くなっている。

勤務先別でみると、小学校で「そう思う」の割合が中学校を大きく上回っている。

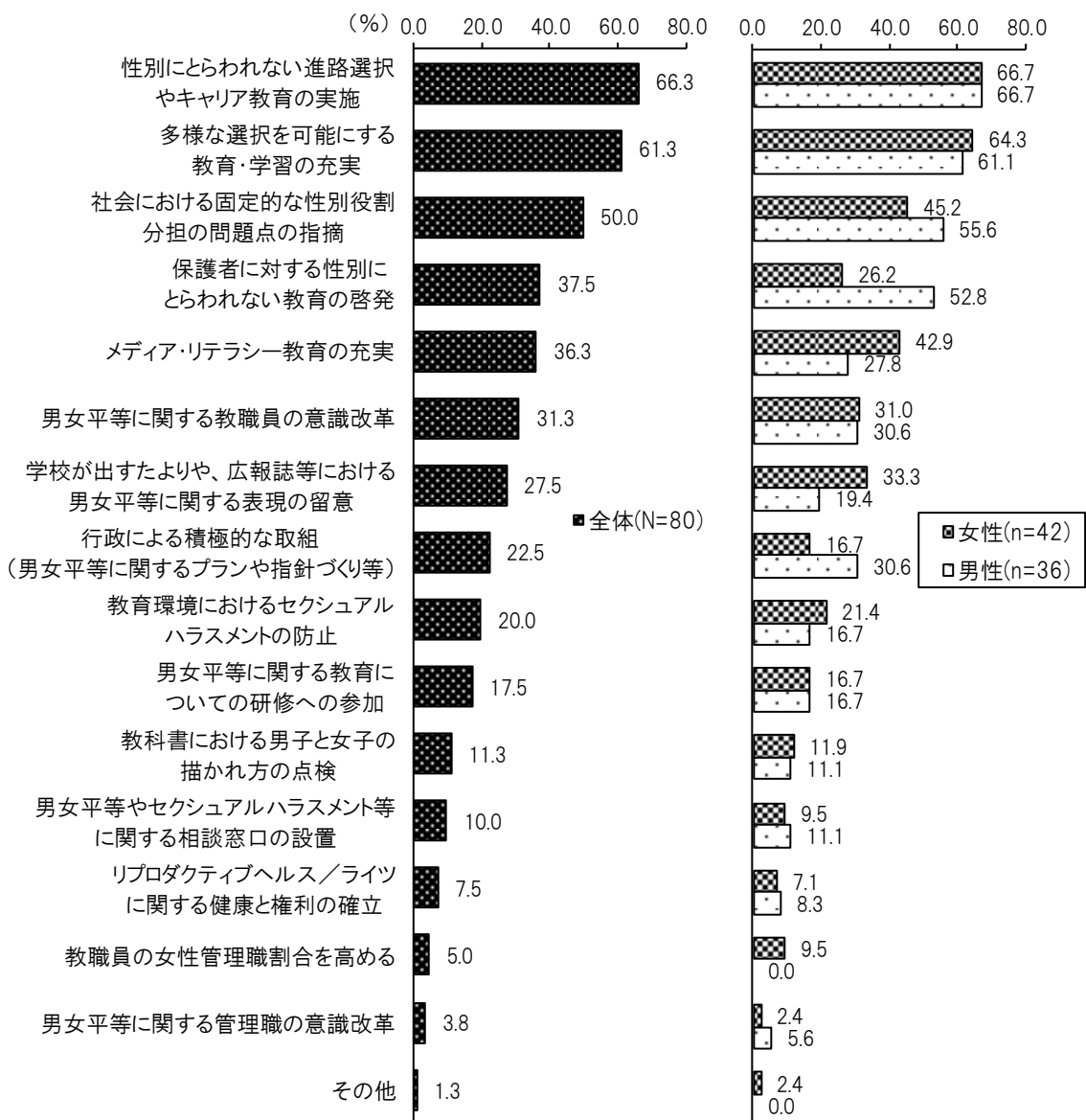


14 男女共同参画の実現のために必要だと思う取組

問 17 あなたは、男女共同参画社会の実現のために、学校でどのような取組が必要だと思いますか。（○印5つまで）

男女共同参画の実現のために必要だと思う取組については、「性別にとらわれない進路選択やキャリア教育の実施」の割合が66.3%と最も高く、次いで「多様な選択を可能にする教育・学習の充実」（61.3%）、「社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘」（50.0%）、「保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発」（37.5%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「メディア・リテラシー教育の充実」「学校が出すたよりや、広報誌等における男女平等に関する表現の留意」の割合が高く、男性は「保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発」の割合が女性を大きく上回っている。



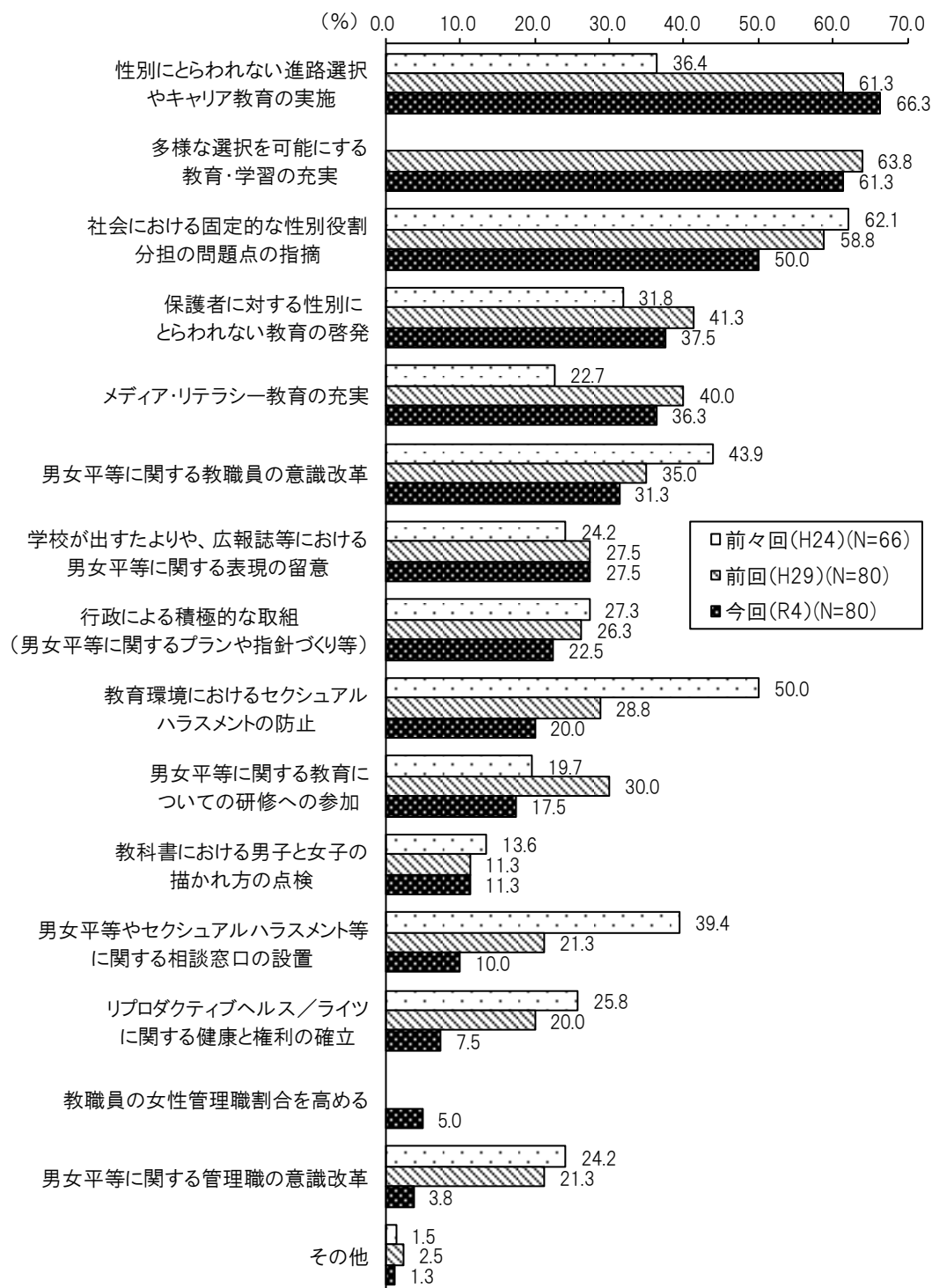
年齢別では、29歳以下で「社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘」、30代で「性別にとらわれない進路選択やキャリア教育の実施」、40代で「男女平等に関する教職員の意識改革」の割合がそれぞれ高くなっている。

勤務先別でみると、小学校で「多様な選択を可能にする教育・学習の充実」「保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発」、中学校で「男女平等に関する教職員の意識改革」などの割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	性別にとらわれない進路選択やキャリア教育の実施	多様な選択を可能にする教育・学習の充実	社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘	保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発	メディア・リテラシー教育の充実	男女平等に関する教職員の意識改革	誌等における男女平等に関する表現の留意	学校が出すたよりや、広報や指針づくり等)	行政による積極的な取組	教育環境におけるセクシュアルハラスメントの防止	男女平等に関する参加教育について
全体(N=80)	66.3	61.3	50.0	37.5	36.3	31.3	27.5	22.5	20.0	17.5	
【年齢別】											
29歳以下(n=15)	60.0	66.7	60.0	40.0	40.0	40.0	33.3	20.0	13.3	20.0	
30代(n=14)	85.7	64.3	42.9	28.6	28.6	28.6	14.3	21.4	21.4	21.4	
40代(n=15)	40.0	73.3	40.0	46.7	46.7	53.3	20.0	20.0	26.7	13.3	
50歳以上(n=36)	72.2	52.8	52.8	36.1	33.3	19.4	33.3	25.0	19.4	16.7	
【勤務先別】											
小学校(n=49)	67.3	71.4	49.0	42.9	40.8	24.5	30.6	22.4	24.5	18.4	
中学校(n=30)	63.3	46.7	50.0	26.7	30.0	43.3	23.3	23.3	13.3	13.3	

単位 (%)	教科書における男子と女子の描かれ方点検	窓口のメン等に関する相談ハ	男女平等やセクシュアルハ	ラビツクテイ健康と権ス利	高教職員の女性管理職割合を	男女平等に関する管理職の意識改革	その他
全体(N=80)	11.3	10.0	7.5	5.0	3.8	1.3	
【年齢別】							
29歳以下(n=15)	0.0	6.7	0.0	6.7	20.0	0.0	
30代(n=14)	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	
40代(n=15)	6.7	0.0	20.0	6.7	0.0	0.0	
50歳以上(n=36)	16.7	19.4	5.6	5.6	0.0	0.0	
【勤務先別】							
小学校(n=49)	14.3	4.1	8.2	6.1	2.0	0.0	
中学校(n=30)	6.7	20.0	6.7	3.3	6.7	3.3	

【参考／時系列推移】

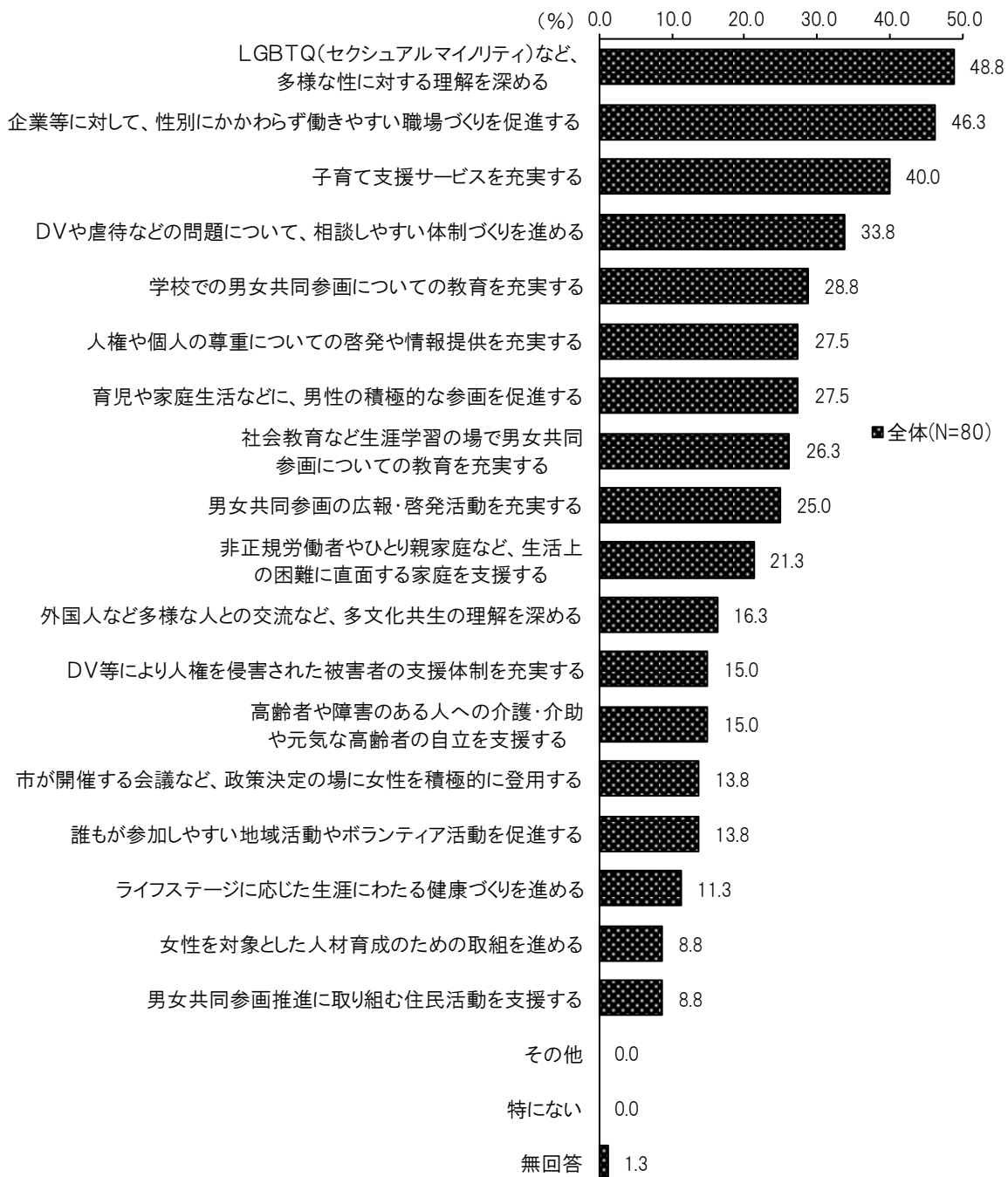


注：前回及び前々回調査については、調査を実施している項目のみ掲載している。

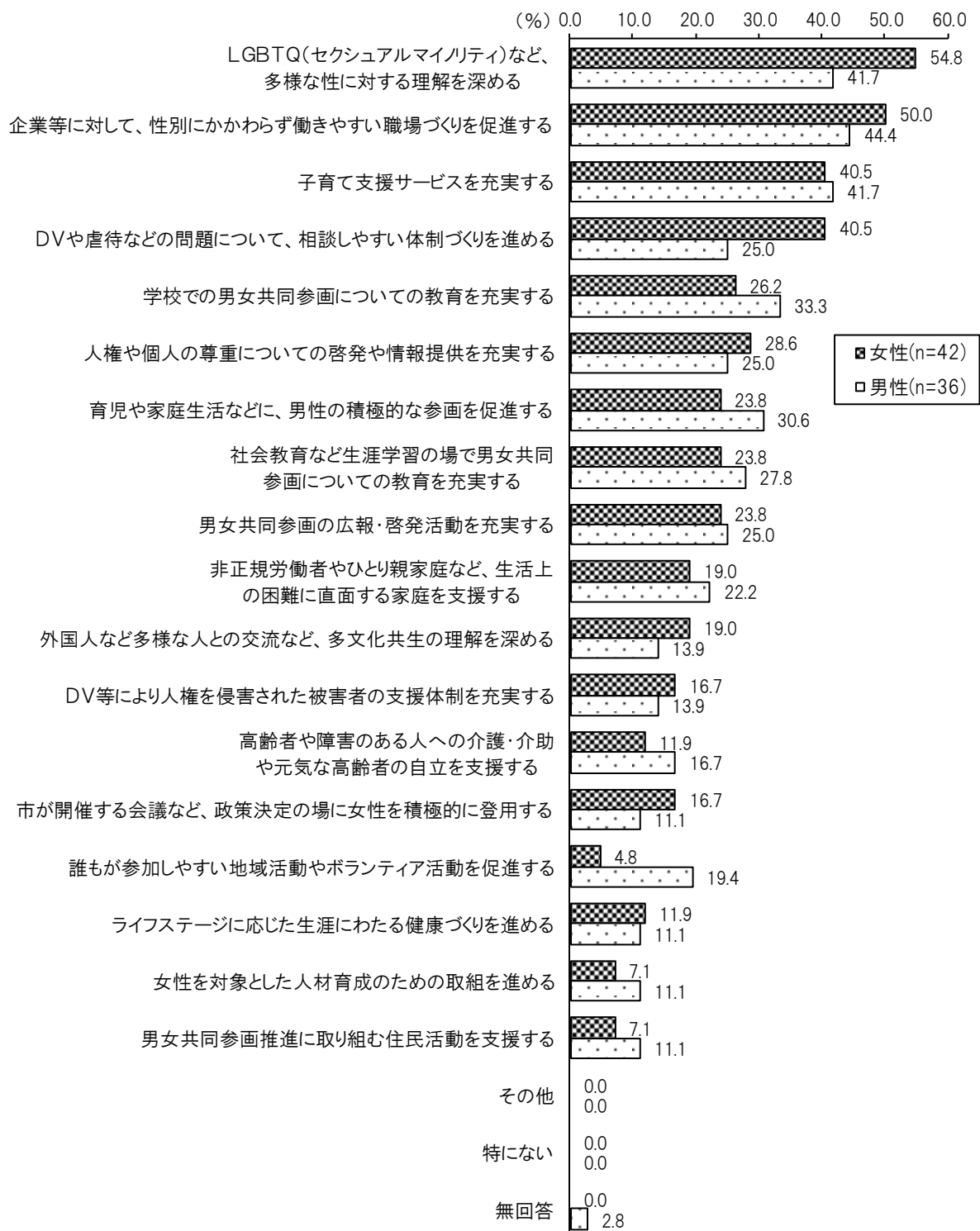
15 男女共同参画の推進に市が力を入れるべきこと

問 18 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、さぬき市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○印5つまで）

男女共同参画の推進に市が力を入れるべきことについては、「LGBTQ（セクシュアルマイノリティ）など、多様な性に対する理解を深める」の割合が48.8%と最も高く、次いで「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」（46.3%）、「子育て支援サービスを充実する」（40.0%）、「DVや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める」（33.8%）の順となっている。



性別では、女性は「LGBTQ（セクシュアルマイノリティ）など、多様な性に対する理解を深める」「DVや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する」の割合が高くなっている。



16 男女共同参画について（自由記述回答）

問 19 男女共同参画についてのご意見・ご要望など、どのようなことでも自由にお書きください。

男女共同参画について、意見・要望等を自由記述方式で尋ねたところ、以下のような意見がみられた。なお、掲載にあたり、誤字等一部修正を行っている。

女性 29 歳以下

- ・私は 20 代女性です。小さい頃は、親から「女の子は家事ができなかつたら困るけん」と言って、兄よりもお手伝いを促されることが多かったように思います。親からすると、それが当たり前だったからそのように言っていたのだと思いますが、兄と平等でないように感じたことがすごく嫌だったなと思います。親は、私たち子どもをとっても大切にしてくれたので、本当に私のことを考えての言葉だったのだと思います。学校生活、社会生活の中で、「男だから」「女だから」という、ものの言い方に違和感を持つようになり、改めて幼い頃を振り返ってそう考えました。今の当たり前が、数年後にはまた変わっていくのかもしれないなと思いました。

男性 29 歳以下

- ・まだまだ昔ながらの考え（男は働き、女は家に入る）が、根強いと思っています。（高齢者に特に強いと思っている。）なので、若い世代から男女共同参画に積極的に取り組み、当たりの男女平等の世界をつくっていくべきだと思います。

女性 30 代

- ・育休を取るにしても、女性が長期間取ることが多い。最近の男性も育児に協力してくれることが多いと思うが、仕事を休んでまでとなると話は変わってしまう。男性の育休取得が職場内で推進されておらず、取りにくいと感じている。男性が、育休を取りたいと思っても難しい。男性の育休取得率も昔に比べると増加しているのかもしれないが、女性が取るときと男性が取るとき、何ら変わらない環境の変化を願ってやまない。
- ・正しい知識、事実を知る場が大切だと思います。

女性 40 代

- ・男女共同参画推進は、とても素晴らしいことだと思います。考え方として、若い世代には受け入れやすい内容であるが、人生の先輩方、つまり 60 代以上の方の考え方を変えていくのが難しく、大変だと思います。社会全体として、この考え方が推進されることを期待します。
- ・どこかの年代がというよりは、全体で取り組む意識が必要かと思います。子どもが成長する過程で男女の差で選択がしにくかったり、個人が尊重されないことがないように、つながりが大切かと思います。

- ・男女共同参画や男女平等は、とても大切なことだと思う。社会には男性が優遇されることと、女性が優遇されることの両方が存在すると思う。男性も女性も我慢したり、悩んだりしていることを忘れたくない。女子を赤で表示し、男子を青で表示した際「女子が赤というのは決めつけだ」と言われたことがある。そんなつもりは全くなかったが、それ以来、赤を使いにくくなってしまい、窮屈さを感じている。そして、急に女子を青で表示すると混乱を招いてしまった。

男性 40 代

- ・男女共に、働きやすく子育てしやすい社会になることを願う。
- ・男性でも育休を取得できる雰囲気がない。家庭より仕事が優先されている社会に、まだまだなっていると思う。

女性 50 代

- ・学校現場でも児童・生徒の仕事（役割）に男女の区別の必要がないものは、変えていくといいと思う。
- ・さぬき市は男女共同参画について、広報紙やイベントで積極的に進めていると思う。
- ・男女共同参画の意識づくりは、小さい頃からの教育が大切だと思います。家庭教育や就学前の教育から、正しい考え方や判断ができるようにしていくと良いと思います。

男性 50 代

- ・「男女」共同参画という言い方が「性差のみ」という、とらえ方になってしまうと思う。「様々な人が生きやすい社会をつくる」ことを目指すための活動、取組としての言い方はないものだろうか？
- ・相手の非を責めるような取組では、人権に関する考え方が広く浸透しない。前向きで明るい未来をみんなで、自分ごととして、とらえられるような活動を展開していきます。
- ・進路指導について、このよううわさ話を聞いたことがある。「A高校のB科は、女子の志願者が多いから、男子のほうが有利だ。」私は、この話を聞いたときの違和感を今でも覚えている。

女性 60 歳以上

- ・男、女という意識がなく人として付き合う、考えることが大切です。積極的に進めたいです。

男性 60 歳以上

- ・家庭教育が1番大切だと思う。

さぬき市 男女共同参画に関する教職員アンケート調査

～ご協力をお願い～

本市では、性別等にかかわらず、誰もが自分らしく、ともにいきいきと生きることが
できるまちの実現をめざす「第3次さぬき市男女共同参画プラン」の策定に向けた取組
を進めています。

このアンケートは、教職員の皆様の男女共同参画に関する意識やご意見をお伺いし、
計画づくりの基礎資料とすることを目的に、市内の小・中学校の教職員にご回答をお願
いするものです。

本調査の趣旨をご理解いただくとともに、ご協力をお願い申し上げます。

令和4年8月

さぬき市長 **大山 茂樹**

ご記入にあたってのお願い

- 1 回答はあなた自身の考えでお答えください。
 - 2 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。また、各設問文にある（○印1つ）
（○印いくつでも）などの指示に従って記入してください。
- ※ 回答は無記名であり、統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、
本調査の目的以外に利用することはありません。

お問い合わせ先

さぬき市市民部人権推進課

〒769-2195 さぬき市志度 5385 番地 8

電話 (087) 894-9088 メール jinkensuishin@city.sanuki.lg.jp

記入が終わりでしたら、返信用封筒に入れて、学校ごとに取りまとめのうえ
9月9日（金）までに市民部 人権推進課まで逡送で提出してください。

問1 あなたの性別*をお答えください。（自認する性別をお答えください。）（〇印1つ）

1 女性	2 男性	3 その他	4 答えたくない
------	------	-------	----------

※ 性別の選択肢については、多様なお答えに配慮して作成しています。以下、性別に関わる質問については、ご自身のお考えに基づいてお答えください。

問2 あなたの年齢をお答えください。（〇印1つ）

1 18～29 歳	3 40～49 歳	5 60 歳以上
2 30～39 歳	4 50～59 歳	

問3 あなたが勤務しているのはどちらですか。（〇印1つ）

1 小学校	2 中学校
-------	-------

問4 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。（〇印1つずつ）

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
① 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである （「男は仕事、女は家庭」という考え方）	1	2	3	4
② 「男は男らしく、女は女らしく」という考え方	1	2	3	4
③ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4
④ 家事や育児は女性の仕事である	1	2	3	4
⑤ 男性の方が論理的である	1	2	3	4
⑥ 女性の方が感情的である	1	2	3	4
⑦ 現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思う	1	2	3	4

問5 あなたは、次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①から⑧までの項目についてお答えください。(〇印1つずつ)

	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている	わからない
① 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
② 職場では	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④ 地域活動では	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念やしきたり・慣習では	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体としては	1	2	3	4	5	6

問6 あなたは、児童や生徒に対して「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言うことがありますか。(〇印1つ)

1 よく言う 2 ときどき言う 3 あまり言わない ---- → 問8へお進みください 4 言わない ----- → 問8へお進みください
--

問7 【問6で「1～2」と答えた方におたずねします。】

どのようなことについて言うことがありますか。(〇印いくつでも)

1 ことばづかい 2 服装や身だしなみ 3 整理整とん 4 手伝い 5 食事のしかた 6 座り方・歩き方 7 勉強・成績(進路を含む)	8 礼儀作法 9 友人との付き合い 10 帰宅時間 11 運動等をやりぬく気力や体力 12 泣いたとき 13 その他()
---	--

問8 児童や生徒は、自身の進路を選ぶときに、性別を意識していますか。女子の場合、男子の場合のそれぞれについてお答えください。(〇印1つずつ)

①女子	
1	性別をかなり意識することが多い
2	どちらかといえば性別を意識することが多い
3	どちらかといえば性別を意識しないことが多い
4	性別をほとんど(全く)意識しないことが多い

②男子	
1	性別をかなり意識することが多い
2	どちらかといえば性別を意識することが多い
3	どちらかといえば性別を意識しないことが多い
4	性別をほとんど(全く)意識しないことが多い

問9 あなたは、児童や生徒の進路指導をするときに、性別を意識することがありますか。(〇印1つ)

1	性別をかなり意識する	3	どちらかといえば性別を意識しない
2	どちらかといえば性別を意識する	4	性別をほとんど(全く)意識しない

問10 あなたは、次にあげる学校の職場環境に対する考え方について、どのように思いますか。(〇印1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえない (わからない)	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
① 人間関係が良好な学校である	1	2	3	4	5
② 休暇を取得しやすい学校である	1	2	3	4	5
③ 育児休業を取得しやすい学校である	1	2	3	4	5
④ 介護休業を取得しやすい学校である	1	2	3	4	5
⑤ 仕事と家庭を両立しやすい学校である	1	2	3	4	5
⑥ 自分にとって働きやすい学校である	1	2	3	4	5
⑦ 性別によって処遇に違いがある学校である	1	2	3	4	5

問 11 あなたの学校では、男女平等・男女共同参画に関する教育に、どの程度取り組んでいますか。
(○印1つ)

1 積極的に取り組んでいる	3 あまり取り組んでいない
2 取り組んでいる	4 全く取り組んでいない

問 12 あなたは、次の用語の意味を知っていますか。(○印1つずつ)

	内容まで 知っている	見聞きした ことがある	知らなかった
① <u>ジェンダー</u> しきたりや慣習など、社会的、文化的につくられた性別のこと。	1	2	3
② <u>ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)</u> 「仕事」と「仕事以外の生活(育児や介護、趣味、学習、地域活動等)」とのバランスを取り、その両方を充実させる働き方、生き方のこと。	1	2	3
③ <u>LGBTQ</u> 次の頭文字から表現した言葉で、性の多様性を表す。 「セクシュアルマイノリティ」とも呼ばれる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ L (レズビアン) : 女性の同性愛者 ・ G (ゲイ) : 男性の同性愛者 ・ B (バイセクシュアル) : 両性愛者 ・ T (トランスジェンダー) : 生まれついた性とは異なる性で生きる人 ・ Q (クエスチョニング) : 自認する性が定まらない人などの総称 </div>	1	2	3
④ <u>アンコンシャス・バイアス</u> 無意識の偏ったものの見方、思い込みのこと。例えば「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」といった固定的な性別役割分担意識など。	1	2	3

問 13 あなたは、児童や生徒の「デートDV」を見聞きしたことがありますか。（○印1つ）

- 1 ある 2 ない

問 14 あなたは、児童や生徒から「デートDV」について相談を受けたことはありますか。（○印1つ）

- 1 ある 2 ない

用語の解説

ドメスティック・バイオレンス（DV）

夫婦や恋人などの親密な関係にある（あった）パートナーからふるわれる暴力のこと。
（夫婦には、婚姻届を出していない事実婚や同性婚を含む。）

- ① 身体的暴力（殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張る など）
- ② 精神的暴力（大声で怒鳴る、無視する、大切にしているものを壊す など）
- ③ 経済的暴力（生活費を渡さない、外で働くことを邪魔する など）
- ④ 性的暴力（性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠中絶を強要する など）
- ⑤ 社会的隔離（勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限する など）
- ⑥ 子どもを巻き込んだ暴力（子どもの前で暴力をふるう、子どもの前でパートナーをばかにする など）

デートDV

恋人同士などの中で起こるドメスティック・バイオレンス（DV）のこと。

問 15 あなたは「選択的夫婦別姓（別氏）制度※」に対して、どのように思いますか。法律や制度の規定にかかわらず、あなたご自身のお考えとしてお答えください。（○印1つ）

- 1 賛成 2 反対 3 どちらともいえない

※ 夫婦が望む場合には、結婚後も夫婦がそれぞれ結婚前の苗字を称することを認める制度のこと。

問 16 「世の中ではLGBTQ（セクシュアルマイノリティ）をめぐる問題は、対応すべき社会的な課題になっている」と思いますか。（○印1つ）

- 1 そう思う 4 そう思わない
2 どちらかといえばそう思う 5 わからない
3 どちらかといえばそう思わない

問 17 あなたは、男女共同参画社会の実現のために、学校でどのような取組が必要だと思いますか。
(○印5つまで)

- 1 社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘
- 2 教科書における男子と女子の描かれ方の点検
- 3 学校が出すたよりや、広報誌等における男女平等に関する表現の留意
- 4 性別にとらわれない進路選択やキャリア教育の実施
- 5 教育環境におけるセクシュアルハラスメントの防止
- 6 リプロダクティブヘルス/ライツ^{※1}に関する健康と権利の確立
- 7 メディア・リテラシー^{※2}教育の充実
- 8 男女平等に関する教育についての研修への参加
- 9 保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発
- 10 男女平等に関する教職員の意識改革
- 11 男女平等に関する管理職の意識改革
- 12 教職員の女性管理職割合を高める
- 13 男女平等やセクシュアルハラスメント等に関する相談窓口の設置
- 14 行政による積極的な取組（男女平等に関するプランや指針づくり等）
- 15 多様な選択を可能にする教育・学習の充実
- 16 その他（

※1 リプロダクティブヘルス/ライツとは、女性が、生涯をとおして自らの身体について自己決定を行い、健康を享受する権利。家族計画や母子保健、思春期保健を含む生涯を通じた性と生殖に関する健康などを言う。
※2 メディア・リテラシーとは、テレビ番組や新聞記事などメディアからのメッセージを正しく読み解く能力のこと。

問 18 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、さぬき市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○印5つまで）

<ol style="list-style-type: none">1 男女共同参画の広報・啓発活動を充実する2 人権や個人の尊重についての啓発や情報提供を充実する3 L G B T Q（セクシュアルマイノリティ）など、多様な性に対する理解を深める4 学校での男女共同参画についての教育を充実する5 社会教育など生涯学習の場で男女共同参画についての教育を充実する6 D Vや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める7 D V等により人権を侵害された被害者の支援体制を充実する8 市が開催する会議など、政策決定の場に女性を積極的に登用する9 女性を対象とした人材育成のための取組を進める10 企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する11 誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する12 男女共同参画推進に取り組む住民活動を支援する13 外国人など多様な人との交流など、多文化共生の理解を深める14 ライフステージに応じた生涯にわたる健康づくりを進める15 育児や家庭生活などに、男性の積極的な参画を促進する16 子育て支援サービスを充実する17 高齢者や障害のある人への介護・介助や元気な高齢者の自立を支援する18 非正規労働者やひとり親家庭など、生活上の困難に直面する家庭を支援する19 その他（）20 特にない
--

問 19 男女共同参画についてのご意見・ご要望など、どのようなことでも自由にお書きください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

～ご協力ありがとうございました～

さぬき市 男女共同参画に関する教職員アンケート調査
報告書

発 行 者／2022（令和4）年11月
発 行 者／さぬき市 市民部 人権推進課
〒769-2195 香川県さぬき市志度 5385 番地 8
電 話（087）894-9088
メー ル jinkensuishin@city.sanuki.lg.jp
